

平成21年度前期(第6期)研究教員

研究報告集録

第6号

はじめに

〈小学校道徳〉

道徳的実践力を育む道徳の授業
～自分を見つめる指導の工夫を通して～

宮古島市立伊良部小学校
教諭 下地 沙織

平成21年9月

宮古島市立教育研究所

はじめに

急激な社会変化の中で児童生徒を取り巻く状況は、深刻さを増し規範意識の低下、社会的マナーの欠如、日々マスコミで取りあげられる事件等々は、マナー化の様相を呈しています。

学習指導要領解説書道徳編（2008年）の中では、「社会全体のモラルの低下」「家庭や地域の教育力の低下」「社会体験の不足」等を現代社会の問題としながらも、児童生徒の道徳性の育成を課題として挙げ、学校教育における道徳教育の役割を強調しています。

新しい学習指導要領への移項の中で、道徳教育が4月から完全実施に入っているのも各学校が「心の教育」に力を入れて欲しいという願いの現れであります。

沖縄県教育委員会が平成21年2月に「道徳の時間」授業づくりに関するアンケートの結果から、身につけたい能力として子供たちは、道徳に関する能力を上位にあげています。しかし、道徳の時間の授業を「とても好き」「好き」と回答した児童生徒の割合は、学年が上がるにつれて減少しています。子供たちが期待している道徳の時間の「豊かな学び」について、今一度、考え、実践することが必要であるとしています。

さて、本教育研究所では、平成21年度前期第6期の研究員が修了しました。研究員は、小学校における道徳教育の領域で6ヶ月間わたって研究が進められてきました。

この収録は、「道徳的実践力を育む道徳の授業～自分を見つめる指導の工夫を通して～」テーマについて研究したものです。本研究では、これまでの「道徳の時間」の授業を振り返り、反省を踏まえて「自分を見つめる指導の工夫」をキーワードに研究を進めてきました。

今までの自分はどうかを見つめさせるのが道徳の時間であり、自分の何を見つめさせるかということそれは価値観であります。ねらいとする価値について、今まで自分はどうか考えてきたのか、友達はどのように考えていたのか、こんな考えもあったのか、というようなことに気づかせることが大切です。そのためには日々の道徳の授業の工夫が重要であります。

この度の研究成果を各学校で参考にいただき道徳教育の推進に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

結びに、研究員の真摯な研究態度に敬意を表し研究を進めるに当たってご指導いただきました琉球大学の緒方先生をはじめ、関係者に心から感謝申し上げます。

平成21年9月
宮古島市立教育研究所
所長 本村幸雄

平成21年度 前期

研究報告書

<小学校 道徳>

道徳的実践力を育む道徳の授業
～自分を見つめる指導の工夫を通して～



宮古島市立教育研究所 第6期研究教員

宮古島市立伊良部小学校 下地 沙織

目次

I	テーマ設定の理由	1
II	研究目標	2
III	研究仮説	2
IV	検証計画	2
V	全体構想図	3
VI	研究計画	4
VII	理論研究	5
1	道徳的実践力の捉え方	5
2	「児童が自分を見つめる」の捉え方	6
3	自分を見つめさせる道徳の時間の工夫	6
(1)	自分を見つめさせる指導過程	6
(2)	自分を見つめさせる資料	8
(3)	自分を見つめさせる発問	8
(4)	自分を見つめさせる指導方法	10
①	話し合い	
②	座席の工夫	
③	書く活動	
④	教師の説話	
⑤	読み物の利用	
⑥	視聴覚教材の利用	
⑦	役割演技	
⑧	板書の工夫	
(5)	自分を見つめさせる評価	11
VIII	実践研究	13
1	検証授業1について	13
2	検証授業2について	15
3	検証授業3について	17
IX	研究のまとめ	20
1	研究仮説(1)の検証	20
2	研究仮説(2)の検証	22
3	研究仮説(3)の検証	24
4	研究の成果と課題	26
(1)	成果	
(2)	課題	
5	おわりに	26
〈主な参考文献・引用文献〉		

〈資料〉

〈道徳〉

道徳的実践力を育む道徳の授業

～自分を見つめる指導の工夫を通して～

宮古島市立伊良部小学校 教諭 下 地 沙 織

I テーマ設定の理由

今日、児童を取り巻く環境には、社会全体のモラルの低下、家庭や地域の教育力の低下、児童の社会体験・自然体験の不足等、様々な問題がある。その結果、児童の自制心や規範意識が希薄化し、いじめやそれによる自殺、体力の低下など本来あるべき健全な発達が阻害されていると言わざるを得ない。そのような状況の中、学校教育の役割は大きく、とりわけ道徳教育は、その中でも最重要課題を担っているといっても過言ではない。今回行われた学習指導要領の改訂においても道徳の授業の重要性が強調され、その授業は学校教育全体で行う道徳教育の要として位置づけられている。

学校における道徳の授業は、児童の豊かな心を育み、人間としての生き方の自覚を促すことで道徳性を育成することをねらいとする教育活動である。今回の改訂において特に強調された内容として「自己の生き方」に関する指導の充実があげられる。ここで多くの道徳の授業では、児童が読み物資料等を通じて、まず登場人物の気持ちを慮り、次に望ましいと考えられる態度や行動を考えるような指導が行われている。しかし日常生活においては、このように道徳的価値に照らして行動しようとする態度が見られないことも少なくない。児童は道徳的価値をきちんと理解し、それを自分のこととして捉えられていないことが考えられ、その結果、道徳的価値を自分の生活場面に生かしていこうとする態度に結びついていないと考えられる。このような観点から道徳の授業内容を改めて振り返ると、例えば資料の提示と発問の仕方のタイミングが合わず、児童にねらいとする道徳的価値を気づかせることができなかつたこと。あるいは児童の声を拾いきれずに、多様な考え方に結びつかせることができなかつたこと等の反省点が挙げられる。

これらの反省点を踏まえて、ここでは道徳の授業を改めて『自分を見つめる』時間として捉えたい。すなわち、道徳の授業を通じて児童が自分を見つめ、よりよくなるろうとする自分を感じ、伸ばしたい自分を見つけながら、自分の生き方についての考えを深め、よりよい生き方を実現していこうとする思いや願いを育てていきたい。そのためにまず「児童が自分を見つめる活動」を促す。児童にとって身近で自分自身と比較し、自分自身に投影することで深く自分のものとして捉えることができる魅力的な教材の選択をし、さらに発達の段階など児童の実態を考慮した発問を工夫することにより、児童が道徳的価値を自分のものとして捉えられることができよう。次に「児童が自分のことを深く見つめる」ことを促す。そのために、例えば心のノートやワークシート等の「書く活動の工夫」を効果的に行う。そのことで児童は自分の考えをまとめることができ、自分自身への深い振り返りにつながるものとする。最後に「児童相互の考えを深める」ことを促す。そのためには話し合い活動が必要である。一つの道徳的価値について自分の考えをまとめ、さらに友達のもつ異なる意見を聞くことによって自己理解、他者理解が深まる。また、他者からの評価を受けることによって、これまで見えなかつた自分が見えることもある。これらの要素を具体的に実現させるためには、異なる意見を認める受容的な学級の雰囲気づくりが鍵となる。

以上述べてきたような教育活動を通して、児童に道徳的価値を自分のものとして捉えさせ、自分を深く見つめさせることによって、結果的に児童が自身の望ましい生き方や考え方についても選択できるようになると考える。児童の内面に語りかける授業を展開し児童相互の関わりの中から自分を見つめることができる授業を組み立て、道徳的実践力を身につけさせたいと考え本テーマを設定した。

II 研究目標

道徳の授業において、段階的に自分を見つめる指導の工夫をすれば児童の道徳的実践力が育まれていくことを授業実践を通して明らかにする。

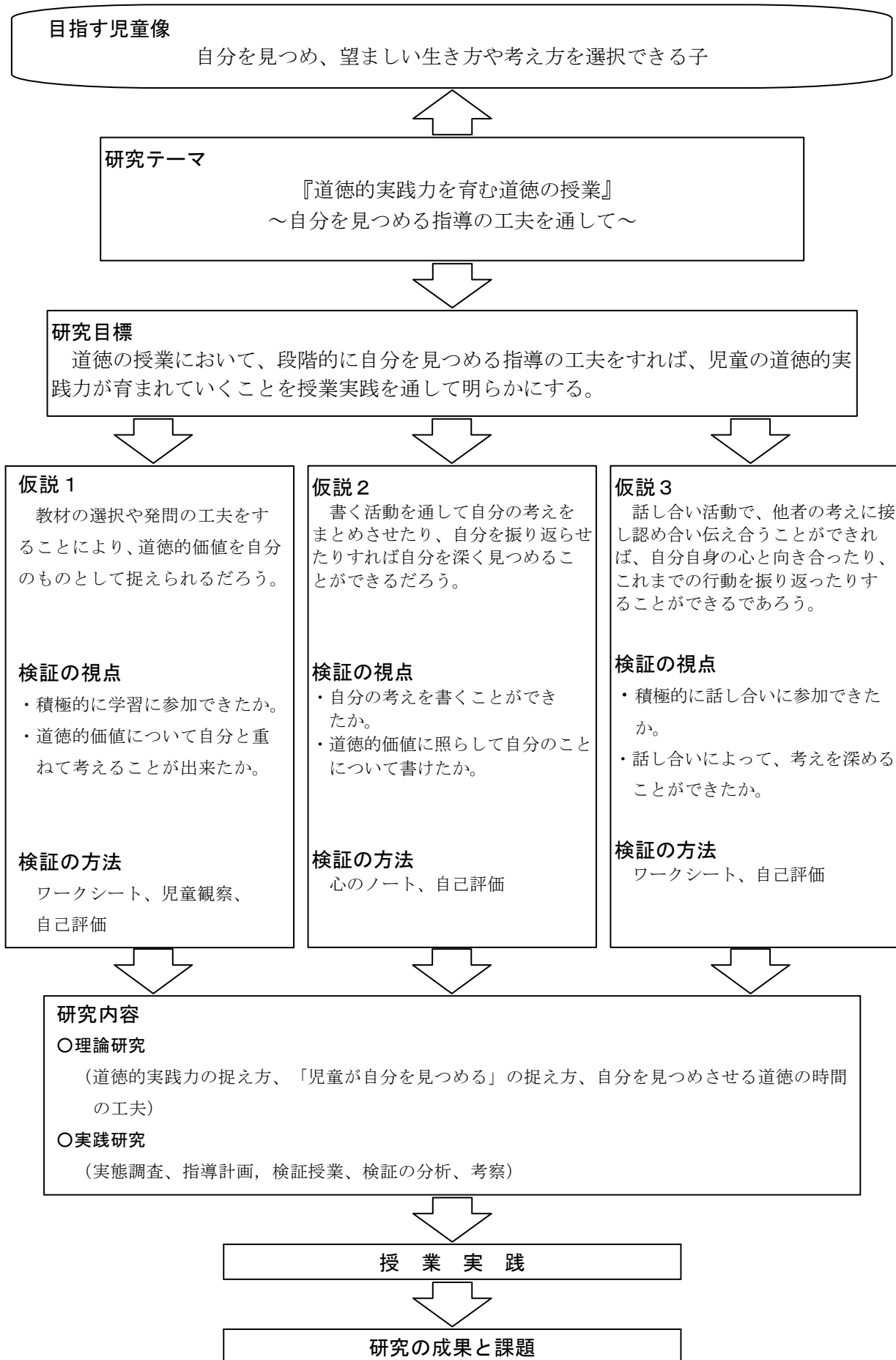
III 研究仮説

- 1 教材の選択や発問の工夫をすることにより道徳的価値を自分のものとして捉えられるだろう。
- 2 書く活動を通して、自分の考えをまとめさせたり、自分を振り返らせたりすれば、自分を深く見つめることができるだろう。
- 3 話し合い活動で、他者の考えに接し、認め合い、伝え合うことができれば、自分自身の心と向き合ったり、これまでの行動を振り返ったりすることができるであろう。

IV 検証計画

研究仮説	検証の視点	検証方法	検証結果
仮説1 教材の選択や発問の工夫をすることにより、道徳的価値を自分のものとして捉えられるだろう。	<ul style="list-style-type: none">・積極的に学習に参加できたか。・道徳的価値について自分と重ねて考えることが出来たか。	<ul style="list-style-type: none">○児童の観察○ワークシート○自己評価	<ul style="list-style-type: none">○記録を数値化し、グラフにする。○ワークシートの記録
仮説2 書く活動を通して、自分の考えをまとめたり、自分を振り返らせたりすれば、自分を深く見つめることができるだろう。	<ul style="list-style-type: none">・自分の考えを書くことができたか。・道徳的価値に照らして自分のことについて書けたか。	<ul style="list-style-type: none">○児童の観察○ワークシートの工夫○心のノート○自己評価	<ul style="list-style-type: none">○ワークシートの記録○事前・事後の感想から数値化
仮説3 話し合い活動で他者の考えに接し認め合い、伝え合うことができれば自分自身の心と向き合ったり、これまでの行動を振り返ったりすることができるだろう。	<ul style="list-style-type: none">・積極的に話し合いに参加できたか。・話し合いによって、考えを深めることができたか。	<ul style="list-style-type: none">○ワークシート○自己評価	<ul style="list-style-type: none">○ワークシートの記録

V 研究の構想図



VI 研究計画

月	研究内容	計画
4	<ul style="list-style-type: none"> 研修テーマの設定・検討 参考文献・資料の収集 参考文献・研究資料による理論研究 	1日 オリエンテーション 2日 第6期入所式・研究の進め方Ⅰ 3日 研究の進め方Ⅱ 7日 始業式 児童の実態把握アンケート 8日 全体構想について 10日 テーマ検討会① 15日 テーマ検討会② 20日 テーマ検討会③ 22日 全体構想図検討会① 27日 全体構想図検討会②
5	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容の進捗状況から今後の取り組みについて検討 参考文献・研究資料による理論研究 中間検討会の資料作成 検証授業の計画・調整・教材研究 	1日 先輩研究員講話 7日 理論研究について 11日 研究進捗状況報告 15日 中間報告に向けて 20日 中間報告会 22日 報告書作成に向けて 25日 検証授業に向けて
6	<ul style="list-style-type: none"> 研究内容の進捗状況から今後の取り組みについて検討 参考文献・研究資料による理論研究 児童の実態把握のためのアンケート調査 検証授業の計画・調整・教材研究 指導計画、指導案作成 	4日 小学校道徳教育推進教師研修会 10日 検証授業指導案検討会① 12日 検証授業1「友だち屋」 17日 検証授業指導案検討会② 19日 検証授業指導案検討会③ 25日 検証授業2「かわいそうなぞう」 29日 検証授業指導案検討会⑤
7	<ul style="list-style-type: none"> 教材研究 検証授業の準備 研修授業の実施 検証授業の分析・まとめ 	9日 ☆検証授業（公開）
8	<ul style="list-style-type: none"> 研修報告書の作成 文献資料の整理 報告書検討会への準備 報告書内容の検討 	5日 報告書検討会① 12日 報告書検討会② 14日 報告書検討会③ 17日 報告書検討会④ 18日 報告書提出（印刷） 24日 成果報告会に向けて
9	<ul style="list-style-type: none"> 研修成果報告会の準備 研修報告書のまとめと反省 年間計画、全体計画 作成 研修報告会・研修のまとめと反省 	9日 ☆研究成果報告会 25日 第6期長期研究教員 修了式

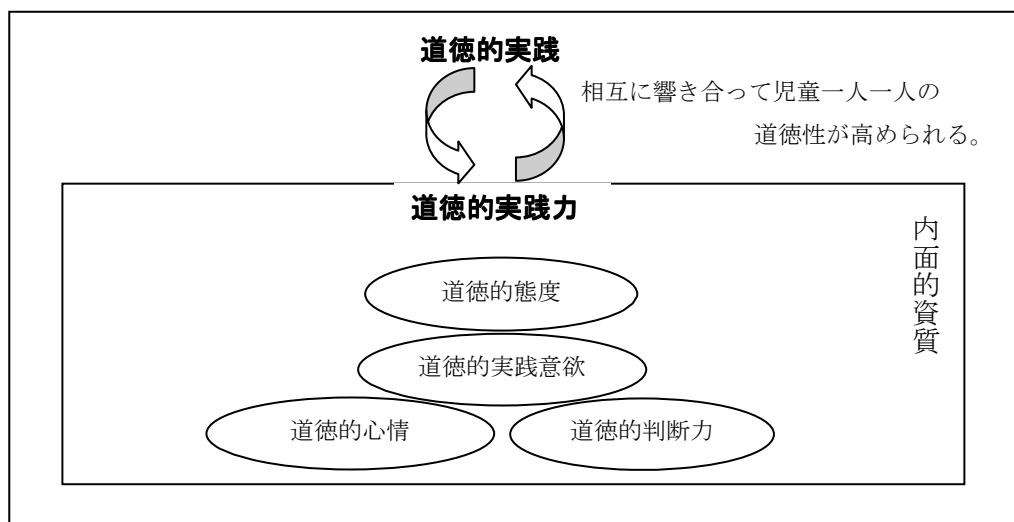
Ⅶ 理論研究

1 道徳的実践力の捉え方

道徳の時間の目標は、道徳的実践力を育成することである。『小学校学習指導要領解説道徳編』では、「道徳的実践力とは、人間としてよりよく生きていく力であり、一人一人の児童が道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、将来出会うであろう様々な場面、状況においても、道徳的価値を実現するための適切な行為を主体的に選択し、実践できるような内面的資質を意味している。それは主として、道徳的心情、道徳的判断力、道徳的実践意欲と態度を包括するものである。」とされている。また、道徳的心情・道徳的判断力・道徳的実践意欲と態度は、以下のよう

道徳的心情・・・道徳的価値の大切さを感じ取り、善を行うことを喜び、悪を憎む感情のこと
道徳的判断力・・・それぞれの場面において善悪を判断する能力
道徳的実践意欲・道徳的心情や道徳的判断力を基盤とした道徳的価値を実現しようとする意志の働き
道徳的態度・・・道徳的心情・道徳的判断力・道徳的実践意欲に裏付けられた具体的な道徳的行為への身構え

道徳的実践力は、道徳的心情と道徳的判断力を基盤にした道徳的実践意欲が道徳的行為への身構えとなって道徳的態度として表れ児童の道徳的実践へと結びつく。さらに、道徳的実践を繰り返すことによって道徳的実践力も強められる。道徳的実践力と道徳的実践は、相互に響き合って、児童の道徳性を高めていくものだと考える。



図Ⅶ—1 道徳的実践力の概念図

2 「児童が自分を見つめる」の捉え方

道徳の時間の目標は、道徳的価値の自覚及び自己の生き方についての考えを深め、道徳的実践力を育成することである。

道徳的価値の自覚を深めるということは、道徳的価値を正しく理解し、自分との関わりで捉え、自分なりに発展させていくことである。正しく理解した道徳的価値に照らして、これまでの自分の考えや行動を振り返り、道徳的価値を自分との関わりで考えることを「児童が自分を見つめる」と捉えた。また、道徳的価値を自分なりに発展させていくとき、すなわち道徳的価値をこれからの自分の生き方に生かそうとするとき、児童はよりよい自分の姿を思い描く。その過程もまた「自分を見つめる」と捉えられると考える。以上のことから、道徳の時間は、児童一人一人がねらいとする道徳的価値との関わりにおいて自分を見つめ、人間として生きていく上での基本的な基準である道徳的価値を発達の段階に即して内面的に自覚し、主体的に道徳的実践力を身につけていく時間であ

ると考えられる。このことから、道徳的実践力を高めるには、1時間の「道徳の授業」で、ねらいとする価値に対して、児童に自分を見つめさせる工夫（自分を振り返らせる工夫）が必要不可欠となる。

3 自分を見つめさせる道徳の時間の工夫

(1) 自分を見つめる指導過程

道徳の授業の指導過程に決まった形はあるわけではないが導入、展開、終末の流れで進められることが多い。

導入は、「ねらいへの導入」「資料への導入」「雰囲気作り」など、主題に対する子どもの関心を高め、意欲の喚起を図り、学習に対する動機付けを行う。例えば、主題に関係する生活体験を発表させる、児童の事前アンケート調査の結果を知らせることなどにより自分と関係がありそうだという意識を持たせたり、主題に関する写真、絵を見せることなどで考える視点を持たせたりすることである。また、雰囲気作りとしては歌やゲーム、クイズなどを行うことや資料の雰囲気に合わせたBGMを用いることも効果的である。

展開は、ねらい達成のための中心となる段階である。授業のねらいとする道徳的価値を探求し、理解し、自分のこととして捉え、これからの自分の生活や生き方に生かしていこうとすることにより道徳性が養われる段階である。展開は前段と後段に分けて考えられることが多い。

展開前段は、児童が資料中の主人公に共感したり、主人公の行為を批判的に検討したりしながら、道徳的価値を追求する段階である。一人一人の心を資料の中にひたらせる資料提示の工夫をしたい。道徳的価値の理解を深めるため、多様な感じ方、考え方を引き出し多様な価値観に出会わせ、異なる価値観に気づかせるような発問の工夫が必要となる。最も大切にしたい場面なので時間を十分に確保する。

展開後段の役割は、資料から離れ価値の一般化を図る段階になる。価値の一般化とは、資料で把握した道徳的価値を多様な生活場面に広げていくことである。指導の際は、自己を肯定的に受け止められるようにすること、現在の生活及び将来の生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする思いや願いを深めることができるようにすることが大切である。

終末は、ねらいとする道徳的価値に対する思いや考えをまとめたりして、今後の発展につなぐ段階であるといわれる。この段階では、教師の説話、児童の感想、日記、詩や作文などの紹介、格言の紹介または、書く活動などを通して本時のまとめをする。つまり、考えたことや新たに分かったことを確かめたり、学んだことを更に深く心に留めたり、これからの思いや課題について考えたりすることである。

自分を見つめさせることに視点を置いて、授業を行う際、重要なことは、児童が受動的に道徳的価値を捉えるのではなく、主体的に自覚を深めていくことである。

児童に主体的な自覚を促すためには、まず、自分自身とねらいとする道徳的価値との関わりに気付かせることである。そのため、児童自身の日常生活での問題意識と資料中の問題意識を照らし合わせる必要がある。資料には、心が揺さぶられ、迷い・悩みなど心に響く資料要素が求められる。次にねらいとする道徳的価値を視点に自分自身を振り返らせることである。気付いた価値に対してこれまでの自分がどのような関わりをしてきたのかを振り返ることによって道徳的価値の自覚が深まる。

自分の生活の中から問題意識を持ち、資料中の道徳的価値について自分の生活に照らして振り返る。この過程を主体的自覚を促す指導過程だと考える。

道徳の1時間の指導過程は、児童一人一人が学級集団の中で自己を見つめながら、人間としての在り方、生き方を考え、追求し、道徳的価値についての見方、感じ方、考え方を深めていく過程だと考える。

表1 自分を見つめさせる指導過程

段階	道徳的価値の自覚の深まり	児童の学習活動	自分を見つめさせる手立て
導入	道徳的価値に気付く	<p>関心を持つ</p> <p>道徳的価値に関連づけて日常生活の行動とその時の意識を想起する。 ☆日常生活における道徳的価値にかかわる出来事を探す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身の問題意識の強い資料を用いる。 <p>問題意識を持たせる</p>
展開	前段 道徳的価値の理解 道徳的価値を自分のものとして捉える	<p>資料の道徳的価値を正しく理解する</p> <p>資料の登場人物の立場に立って感じたり考えたりして、道徳的価値を理解する。 ☆資料を読んで話し合う。 ☆資料への共感や感動を大切に、話し合う。</p> <p>道徳的価値を自分との関わりで捉える</p> <p>生活経験と道徳的価値を照らし合わせる。 ☆自分の道徳的価値に対する考え方に気付く。</p>	<p>感動・共感・葛藤など心を揺さぶる資料の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 登場人物に託して自分の気持ちを語らせる資料提示の工夫をする。 多様な価値観を引き出す発問をし、必要に応じて類型化する。
	後段 道徳的価値を自分なりに発展させる	<p>他者の道徳的価値に対する考え方を生かす</p> <p>自分の考えと友達の考えの違いを感じる。 ☆自分の考えを述べ、相手の考えを聴き、気付いたことを話し合う。</p> <p>自分の道徳的価値に対する考え方を深める</p> <p>自分の心と向き合い、自分を深く見つめる。 ☆これからの自分の生き方について考える</p>	<p>自分を見つめさせる視点からの明確な発問</p> <ul style="list-style-type: none"> 見方や考え方を広げる話し合い活動を促す発問をする。 <p>自分の考えをまとめ、自分を振り返るための書く活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 学んだ道徳的価値と生活経験を対比させるようなワークシートの工夫をする。
終末	道徳的価値を将来に生かそうとする	<p>自分の考えをまとめる。</p> <p>授業を振り返り、感じたことや考えたことをまとめる。 ☆道徳的価値についての考え方の変化やこれからの生活についてワークシートにまとめる。</p>	<p>今日の道徳的価値の深まりの記録</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートなどを保存し道徳ファイルを作らせる。

(2) 自分を見つめさせる資料

児童が資料中の人物の気持ちや考えを想像し、そこに自分の感じ方・考え方を重ね、想像を膨らませていく。想像の中で、自己投影や自我関与がなされ「自分」の在り方を意識する。

資料は、道徳の時間の中心的教材であり、その善し悪しは道徳の時間の成否を左右する。資料は、児童が道徳的価値の自覚を深めていくための手がかりとして極めて大きな意味を持っているからである。児童が自分を見つめる資料として、児童の発達に合った資料、クラスの実態に合った資料を教師が選択し、授業に役立てることが大切になる。そこで、児童の心を揺さぶり、考える意欲をわき立たせ、道徳的価値を多面的に引き出されるような資料を選ぶようにする。

① 児童の体験が直接教材になった資料

学校生活や家庭生活の取材をした児童の資料、作文を生かした資料などは、生活の中での継続的な努力などが描かれ、考える場面がはっきりわかる。

② 自己を投影しやすい寓話や童話的な資料

寓話や童話は、動物が主人公になっていたりして、子どもが現実から離れ、自由に自己投影するきっかけとなる資料であり、生活に根ざした資料とは違う利点を生かすことができる。

③ ヒーロー・ヒロインの生き方を描いたもの

スポーツマン、芸術家、漫画家など今をときめく人は児童の心にその生き方が深く刻まれる。伝記上の人物の生き方に取材した資料も、児童が自分と比較したり、投影したりして自分を見つめるきっかけになる。あこがれの人の生き方に触れ、価値の自覚を深め、自分なりの生き方を見つけることが期待される。

④ 登場人物の心の動きが効果的に描かれた資料

児童が資料中の人物に自分を重ねて考えるとき、人物への共感だけでなく、自分の体験を引き出して重ね、自分自身のこととして考えられる部分も必要である。

(3) 自分を見つめさせる発問

教師による発問は、児童の思考や話し合いを深める鍵になる。発問によって児童の問題意識や疑問などが生み出され、多様な感じ方考え方が引き出される。

導入・展開・終末の各段階に応じた発問の役割があるが、どの段階においても、児童に自分を見つめさせる（自分に照らし合わせて考える）視点を提示する。児童が自分のこととして考え、答えられるような発問であることが重要である。教師の心構えとしては、どのような児童の反応に対しても受容的に対応することが求められる。

① 導入における発問

段階	発問の役割	発問のはたらき	発問の種類
導入	気づかせる	○主題に対する意欲づけ ○ねらいに向けた方向づけ	・興味、関心を起こさせる発問 ・経験を想起させる発問 ・課題を確認し、共通化を図る発問

導入の発問としては、道徳的価値への興味・関心を高め、授業へ引き込み、課題の確認ができるような発問にすることが重要である。

一つめに自分に問いたくなる状況を提示し、振り返りの必要感や必然性を持たせることである。そのための手立てとして、児童の失敗してしまった経験の日記や作文、クラスの正直さに対するアンケート結果、関連する新聞記事、写真、絵が考えられる。自分のこととして捉えやすい発問にする。

二つめに児童が教師からの質問に対して、自分自身に問いかけたとして（自分を見つめる）自分なりの答えが見いだせるような材料・資料を持たせておくことである。例えば、日記や作文、

心のノート、グループでの話し合いの時間などが考えられる。過去の自分ないしは周りの友達が自分の考えをまとめるための具体的資料、手立てと考えられる。

三つめに一人一人が感じる自分の不十分さや曖昧さ、また問題点や課題などを引き出し、共通理解させるなどして、本時の学習課題と結びつけて全体に返すことである。例えば、自分一人が迷っていたり、悩んだりすることは実はクラスの多くの友達が同じように感じているのだということに気付かせる。その迷いや悩みを解決する学習が価値あることに気づかせ、学習課題を提示するとともに課題達成への意欲を高める。

このような、導入時の発問を工夫することにより、「もし、自分が主人公だったら・・・」と主人公になったつもりで自分に置き換え考えることが可能になって自分の考えを発表することができると考えられる。

② 展開の前段における発問

段階	発問の役割	発問のはたらき	発問の種類
展開の前段	道徳的価値の追求 道徳的価値を捉える 広める 深める	○問題の意識化・共通化を図る。 ○自分なりの感じ方、考え方を持たせる。 ○他と比較し、考えさせる。 ○改めて自分の感じ方、考え方を持たせる。	・資料中の事実や場面、状況、あらすじを問う発問。 ・資料提示後の感想、考え方意見、問題点等を問う発問 ・主人公の行為の受け止めに対する動機、心情、理由などを問う発問 ・児童の発言や反応を生かし、視点の転換や方向付けを問う発問 ・自分の考えは、どれに近いかを問う発問

ここで具体的な発問の方法として、「人物の内側に入って考えさせる発問」と「人物の外側に自分を置いて考える発問」の2つを考えることができる。

人物の内側に入って考えさせる発問「主人公の〇〇さんは、どんな気持ちでしょうか。」「主人公の〇〇さんは、この後どうするでしょうか。」のように、「気持ち」を問うものと、「行為」を問うものである。どちらも、人物の立場で考えさせるものである。

外側に自分を置いて考える発問は、「あなたが主人公の〇〇さんなら、どんな気持ちになるでしょうか」「主人公〇〇さんは、どうすべきでしょうか（あなたならどうするか）」のようになる。これは、「資料中の主人公が実際にどう感じているかは別にして、自分ならどう感じるか」や「主人公がこの後どうするかは別として、主人公の行うべき行為を自分なりに判断するなら、主人公はどうすべきか」など自分と主人公を区別し、自分の立場で捉えさせるものである。

どちらの発問でも「気持ち」を考えさせる場合は、「道徳的心情」や「意欲」に関する価値観が、「行為」を考える場合は、「道徳的判断力」または「道徳的態度」に関する価値観、見方・考え方がでてくる場合が多い。

③ 展開の後段における発問

段階	発問の役割	発問のはたらき	発問の種類
展開の後段	自分を見つめる	○ねらいとする関連で、今までの自分を見つめさせる。	・ねらいとする価値に関わって、今までの自分を見つめる発問 直接経験 ～したことがある。 ～されたことがある。 間接経験 ～を見たことがある。 ～を聞いた事がある。

			などのように、その時の気持ち、考え、思いなどを問う。
--	--	--	----------------------------

展開後段は、資料を通して把握された価値を児童自身の生活において考える時間であるため、道徳的価値を広く自分の価値観として自覚させる発問を考えたい。例えば「〇〇さんの立場で考えたらどれが最もよいか。そのとき、どんな気持ちでしたか。」と問い今までの生活（行動や考え方）を振り返り、自分の体験を語らせ、その時の気持ちや考えを話す中で自分を見つめる時間とし、価値観の自覚を図る。

④ 終末における発問

段階	役割	発問のはたらき	発問の種類
終末	まとめる	○生活に生かし、発展させる意欲を持たせる。 ○まとめる	・授業について感想を問う発問 ・今日の授業で、強く心に残ったことを問う発問

終末は、1時間の学習を振り返り、児童が感じ取った道徳的価値について確認し、まとめる段階である。一般的に行われている終末の指導方法は、教師による説話、児童に感想を書かせる発表などである。教師が、最も注意しなければならないのは、「困っている人がいたら助けてあげよう」など、実践に結びつけるような発問をしてはいけないということである。児童が押しつけを感じてしまう発問は、避けるようにする。終末の発問では、自分を肯定的に捉えさせ、よりよくなろうとする意欲を持たせるような発問の工夫が必要となる。

(4) 自分を見つめさせる指導方法

道徳の時間に生かす指導方法には多様なものがある。道徳的価値について深く考え、学級の仲間と相互に学び合う時間にするためには、児童の感性や知的な興味などに訴え、児童に問題意識をもたせ、意欲的に考えさせ、主体的に話し合わせる事が必要となる。ねらい、児童の実態、資料や学習指導過程などに応じて、最も適切な指導方法を選択することが大切である。

① 話し合い

道徳的指導における話し合いは、教師と児童、児童と児童の心の橋渡しの役目をもつ。道徳の指導での話し合いとは、個人の思考の過程を大事にし、意見を出し合う、まとめる、比較するなど目的に応じた効果的な話し合いを設定する必要がある。

児童が自分自身を直接振り返ったり、自分のこととして価値を受け止めるための話し合いになるよう座席や書く活動の工夫も必要とされる。

② 座席の工夫

話し合いをする際の座席の配置は、話し合いを展開する中で重要な役割を持っている。全員で話し合う場合、少人数で話し合う場合、討論形式の場合など話し合う目的によって「コの字型」「対面型」「少人数型」などの形態が考えられる。

「コの字型」は、中央の空間を生かして説明や実演、動作化などが行える活動型である。教師や学級の仲間の顔が見えるため、温かな雰囲気の中で話し合いを進めることができる。教師と児童だけでなく全体的に関わりを持てるのでたくさんの意見が出ることが多い。その中で児童は、多様な意見に触れ、自分を見つめる時間を持てる。

「対面型」は、テーマに沿って互いに討論を重ねる場合に効果がある討論型の形態である。自分の意見を持たないとディベート出来ないのも、自分と向き合った上で他者と向き合うことになる。

「少人数」は、一斉指導から、2～4人を単位とした話し合いにスムーズに移行できる形態である。少人数で話し合うことで、全体の場で意見の言えない児童も参加でき、友達の意見に触れ、自分の考えもまとめやすくなり、自分を見つめることにつながる。

③ 書く活動

書く活動は、児童が自らの考えを深めたり、整理したり、また、後日振り返るための記録としてメモを取ったりするなど、重要な役割をもつ。この活動において、十分な時間を設定することで児童は自分なりの取り組み方で自分にじっくり向き合うことが出来る。書く活動は、児童の自分の心への問いかけに対して行わせることが多いが、それ以外にも、終末で感想を書かせたり、事後に道徳的価値を発展させるために、授業・考えの変化をまとめさせたりするなど多様な活用が考えられる。しかし、考えたことや思ったことを短時間で書くことは、大変負担である。そのため、予想される考えを選択肢として与え、選ばせた後にその理由を書かせる行為や心のありようを文章の穴埋め方式で記入してもらうなどワークシートの工夫をすることも書く活動の充実につながると考えられる。また、物語の主人公の気持ちになって答える場合は、吹き出しを使うことも効果が見られる。

書く活動は、児童が書いたものを必ず教師や保護者がそれを認め、励ましの足跡を残すことが大切である。そのために道徳ファイルなど累積の工夫をしたい。このファイルは、児童が自分の心の成長を振り返る重要なものになるであろう。

④ 教師の説話

教師が自らの人生のなかで体験した感動的、教訓的な話を児童に語って聞かせる学習方法である。教師による本気で熱心な人間味あふれる説話は、児童との信頼関係が増すとともに、教師の人間性がにじみ出る説話は、児童の心情に訴え、深い感銘を与えることが出来る。

⑤ 読み物の利用

道徳の授業の読み物資料としては、副読本、資料、新聞、雑誌、生徒の作文などがある。主人公の気持ちや身近な資料の人物に自分を重ねることによって、道徳的価値を捉えやすい。

⑥ 視聴覚教材の利用

視聴覚教材は、児童に視覚的・聴覚的に訴えることでわかりやすくなり、学習が活性化する効果がある。教材には、絵図、写真、紙芝居、テレビ、ビデオ、パソコン等である。

⑦ 役割演技

即興的な演劇を行い、他者との役割関係を発展させ、自発性と新たな気づきをつくり出す集団活動である。演技後は、現実の自分に帰り、演技体験を語り合い、気づきを学級の仲間と共有する。自分の考えの在り方について深める格好の機会になる。

⑧ 板書の工夫

道徳の時間は、黒板を生かして行うことが多く、板書は児童にとって思考を深める重要な手がかりとなる。板書は、授業のスタート「導入」の時点からじっと見続ける中で、児童に友達を感じたこと、考えたことを見えるようにすることができる。児童相互の共有したノートだといえる。そのため、教師が児童の考えを取り入れ、児童と共に作っていくような創造的な板書となるように心掛けることが大切である。

(5) 自分をみつめさせる評価

道徳の時間で児童の評価をしてはいけないという捉え違いがある。国語や算数などの教科の指導で、学習の様子を見ながら、理解の状況を推し量ったり、指導に生かしたり、指導の改善に役立てたりすると同様に、道徳の時間の評価も大切にしなければならない。児童の実態を把握して指導に生かす努力が他教科以上に必要とされる。

学習指導要領「第3章道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取り扱い」には、「5 児童の道徳性については、常にその実態を把握して指導に生かすよう努める必要がある。ただし、道徳の時間に関して数値などによる評価は行わないものとする。」と示されている。

児童の道徳教育における評価は、教師が児童の人間的な成長を見守り、児童自身が自分のよりよい生き方を求めていく努力を評価し、それを勇気づける働きをもつものであるといえる。

評価の方法もその目的に応じて工夫することが大切である。

① 観察や会話による方法

児童のあるがままを観察したり、児童との会話の中で得られたものを生かして記録したりする方法があり、態度や表情の微妙な変化からその背景にある心の動きを捉えるなど、児童の内面の理解に努めることが大切である。

② 作文やノートなどの記述による方法

児童の作文や日記などは、児童が日頃から感じ考えていることを知る方法である。行間にこめられ

た思いを共感的に理解する姿勢が必要である。記述の後の教師のコメントも評価の1つと考える。

③ 質問紙法

質問紙による方法は、教師があらかじめ作成した質問や児童が直面すると考えられる問題場面での児童の心情、判断やその理由などを回答してもらうことによって必要な情報を収集するものである。具体的に考えられるのは、事前アンケートや授業中のワークシートなどであるが、その内容は、道徳的価値を捉え、さらに児童の実態にあわせてわかりやすい質問でなければならない。

④ 面接による方法

直接に児童と相対して話し合うことで、児童の道徳的な感じ方、考え方などを理解しようとする方法であり、児童の人格を尊重し、誠実に接しながら、児童自身が自己の内面を語るができるようにすることが重要である。

⑤ その他の方法

自己評価なども評価の一つだと言える。自分の心情や考え方の様子を目に見えるようにするもの有効な方法である。児童に直接に答えてもらうため、発達の段階に応じて、各学年なりに自己評価できるような表現の工夫が必要となる。自分を自分で評価することで自分を見つめることになるだろう。

Ⅷ 実践研究

1 検証授業 1

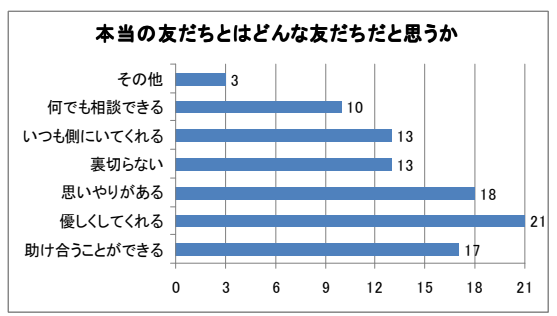

- (1) 実施日 6月12日(金)
- (2) 主題名 本当の友だち 2-(3)友情
- (3) 資料名 「友だち屋」 『3年生の道徳・沖縄県版』文溪堂
- (4) ねらい

読み聞かせや役割演技を通して本当の友だちとは何かということについて考えさせることにより、よい友達関係を築いていこうとする態度を育てる。

(5) 授業仮説

- ① 副読本の挿絵を拡大して説明を加えながら、読み聞かせすることにより、価値が捉えやすくなるだろう。
- ② 役割演技をさせることにより、キツネの心情に近づけ、価値の理解を自分のものとして捉えるだろう。
- ③ 自分の考えをワークシートに書く活動を充実させることにより、自分を見つめ、より良い友達関係を築こうとする意欲をもつだろう。

(6) 展開

学 習 活 動 ◎発問・ 検証の視点	学 習 活 動 の 様 子 ◇ 指 導 の 工 夫																
<p>1 友だちについてのアンケートについて結果を見て自分にとって友だちとはどんな存在かを考える。</p> <p>◎あなたにとって友だちってどんなものですか。</p>	<div style="text-align: center;">  <table border="1"> <caption>本当の友だちとはどんな友だちだと思うか</caption> <thead> <tr> <th>友だちの姿</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>その他</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>何でも相談できる</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>いつも側にいてくれる</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>裏切らない</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>思いやりがある</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>優しくしてくれる</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>助け合えることができる</td> <td>17</td> </tr> </tbody> </table> </div> <p>◇アンケートの結果を提示し、他の人の考えを知らせることにより、自分の考えをまとめさせた。</p>	友だちの姿	人数	その他	3	何でも相談できる	10	いつも側にいてくれる	13	裏切らない	13	思いやりがある	18	優しくしてくれる	21	助け合えることができる	17
友だちの姿	人数																
その他	3																
何でも相談できる	10																
いつも側にいてくれる	13																
裏切らない	13																
思いやりがある	18																
優しくしてくれる	21																
助け合えることができる	17																
<p>2 「友だち屋」の絵本の読み聞かせ聞き、キツネの心情を考える。</p> <p>◎キツネはイチゴでしくしくするおなかをおさえながら何を思ったのでしょうか。</p> <p>◎オオカミとトランプをしながらキツネはどんなことを思ったのでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>キツネの場面絵の表情から道徳的価値を捉えているか。</p> </div>	<div style="text-align: center;">  </div> <p>◇児童と語り合う雰囲気を読み聞かせをし、児童の声を拾って読み進め、物語の理解を図った。</p> <div style="text-align: center; margin-top: 20px;">  </div> <p>◇場面絵の表情からキツネの気持ちを感じ取らせた。</p>																

3 おおかみに「これが本当のともだちか。」と言われたときの気持ちを考える。

◎オオカミに「それが本当の友だちか。」と言われてキツネはどんな気持ちになったのか。役割演技をして考えてみましょう。

役割演技を使って道徳的価値を自分のものとして捉えたか

4 帰りにスキップしたキツネの気持ちを考える。

◎帰りにスキップしたキツネの気持ちを考えよう。

場面絵や黒板板書などから道徳的価値を深められたか。

5 自分の友だち関係について振り返る。

◎あなたにとって本当の友だちってどんなものですか？

本時の価値と自分の生活と結びつけ「友だちがいてよかった」と自分を振り返ることができたか。

6 教師の説話・詩の紹介
「20年の友だちについて」

◇役割演技で「本当の友だち」と言われた嬉しさを共感させる。



◇場面絵を使い、キツネの表情からキツネのスキップの理由を考えさせた。



◇書く活動によって自分を振り返らせた。



◇教師の説話を聞かせ、今日の授業を振り返らせた。

(7) 授業のまとめ・反省

3年の担任をすることになって、子ども達と初めての授業である。「友だち」に関して質問紙法を使った児童の実態把握を試みた。言葉が難しすぎたのか1問ずつ説明を加えながらでないアンケートもできないということに驚いた。また、「しくしく痛む」など言葉の意味を勘違いしてしまい、心情を捉えていない児童も見られた。発問は、児童の実態に合わせて、言葉を充分に選択しなければならないことに気付かされた。

絵本の読み聞かせを進める授業を行ったが、児童と語り合う雰囲気を読み進めることが出来、児童もキツネの気持ちや自分の考えを話す事が出来て資料選択がうまくいったと感じた。

ワークシートからは、ほとんどの児童がキツネの感情を捉えており、「友だちが嫌な顔をしているときは、やらない」などという自分のことに結びつけた感想を持てた。

2 検証授業 2

(1) 実施日 6月25日(木)

(2) 主題名 大切な命 生命尊重 3-(1)

(3) 資料名 金の星社 「かわいそうなぞう」 土屋由岐雄 著

(4) ねらい

生命の尊さを感じ取り、生命のあるものを大切にしようとする態度を育てる。

(5) 授業仮説

- ① 「かわいそうなぞう」の絵本を紙芝居にし、場面絵を使って心に残った場面について話し合うことにより、道徳的な価値が捉えやすくなるだろう。
- ② 話し合い活動で、友だちの意見に触れることにより、多様な視点で自分を見つめることができるだろう。
- ③ 生命について自分の生活と照らし合わせ自分の考えを書くことにより、自分を深く振り返ることができるだろう。

(6) 展開

学 習 活 動 ◎発問・ 検証の視点	学 習 活 動 の 様 子 ◇指 導 の 工 夫
<p>1 身近な命について考えていることを話す。</p> <p>◎写真を見てどう思いますか。</p> <p>◎命について考えたことは、ありますか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>動物・人間の親子の写真を見て、命について自分の考えを持とうとしているか。</p> </div> <p>◎慰霊の日の学習を通して、考えたわけは何ですか。</p> <p>2 絵本「かわいそうなぞう」の読み聞かせを聞きながら考える。</p> <p>◎物語の象の様子や係の人達の気持ちを考えながら聞きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「かわいそうなぞう」の感想を紙芝居のシーンと重ね合わせ価値を捉えることができるか。</p> </div> <p>◎どのシーンが心に残っていますか？</p>	<p>◇動物の親子写真・クラスの友だちの親子写真を見せることにより、身近な命について考える足がかりとした。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>◇今日の話は、実話であることを押さえて資料を読む。</p> <p>◇BGM:「千の風になって」で、雰囲気作りをした。</p> <p>◇大型紙芝居を使い、児童との距離を近くすることで児童の集中力と理解を助ける。話し合う雰囲気を作る。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>◇児童の感想を紙芝居の感想に合わせて場面絵をめくり、児童の考えと価値を捉えさせた。</p> <p>◇児童の声は、黒板に板書し、友だちの声として、自分の考えを深める視点にした。</p>

<p>3 「かわいそうなぞう」について話し合う。</p> <p>◎心配でそっとのぞく人がくるとよろよるとさくを離れ、芸当をして、えさをねだるトンキーは、どんなことを考えたのでしょうか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>話し合い活動から、友だちの意見を良く聞き自分の考えと比べているか。</p> </div> <p>◎芸を見た飼育員の気持ちを想像してみましょう。</p> <p>4 命について考える。</p> <p>◎自分の命を大切にするために出来ることはなんですか。</p>	 <p>◇紙芝居で確認しながら、多くの児童の考えを出させ、同じ場面でも、感じ方が違うことなどを捉えて考えが深まっていくように話し合いをつなぐ。</p> <p>◇書く活動で自分の考えをまとめた児童は、友だちとの考えの違いに触れ、自分の意見を再度確認していた</p> 
<p>5 まとめ</p> <p>◎友だちの作文を聞きましょう！</p> <p>作文紹介 「妹が生まれた日」 「弟が生まれた日」</p>	 <p>◇友だちの妹や弟、身近な命の誕生に対して、これまでの自分を振り返り、生きているすばらしさを感じ取らせた。</p>

(7) 授業のまとめ・反省

BGMとともに大型紙芝居による読み聞かせを行った。導入と終末で、今年、生まれた児童の写真と生まれたときの感想を作文紹介した。

動物好きの児童が多く、導入の動物の親子、友だちの親子の写真から口々に「赤ちゃん」と笑顔になった。生まれてくる命を感じ、「赤ちゃん」は、小さくて守らなければならないことを授業中の発言から十分に感じ取れた。

かわいそうなぞうの物語についても、ワークシートから大好きな動物が戦争のために死んでいくと言うことに触れ、「命は、守られている。」「生かされている。」ということに気づくことができていた。

3 検証授業3

(1) 実施日 7月 8日 (水)

(2) 主題名 隠さずに正直に 1-(4) 正直誠実・明朗

(3) 資料名 「まどガラスと魚」 『3年生の道徳・沖縄県版』文溪堂

(4) ねらい

過ちを犯してしまったときに、どのように判断し、行動すればよいのかを考え、うそやごまかしをしないで正直に行動しようとする態度を育てる。

(5) 授業仮説

① 資料提示を前段・後段に分けることで過ちを犯してしまったその後のとるべき行動を考えさせ、価値の理解が深まるであろう。

② ワークシートに項目ごとに書かせることによって自分の行動を見つめることができるであろう。

③ 主人公の心を想像し、話し合う活動により、価値の理解を深めることができるだろう。

(6) 展開

学 習 活 動 ◎発問・ 検証の視点	学 習 活 動 の 様 子 ◇指 導 の 工 夫
<p>1 本時の方向付け</p> <p>◎図書館の借りてきた本を破ってしまいました。この友だちは、どんな行動をとると思いますか？</p> <p>2 まどガラスと魚を読んで話し合う。 ～資料前半を聞く～</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>資料提示を前段・後段に分けることで過ちを犯してしまったその後のとるべき行動を考えることができたか。</p> </div> <p>(1)進一郎の心の弱さを考える。 ◎まどガラスをわってしまった進一郎が逃げているとき、どんな気持ちがしたと思いますか。</p> <p>(2)進一郎の心の迷いを考える。 ◎「ガラスを割ったのは、だれだ」というはり紙見たとき、進一郎はなぜ心がしめって重くなったのでしょうか。</p>	<p>◇「みんなの前で自分の失敗を答えられる児童はほとんどいない。」というアンケート結果を踏まえ失敗してしまって謝った方がいいとわかっているにもかかわらず、そうできない理由があることに気づかせる発問の工夫</p>   <p>◇効果音 (ガラスまどの割れる音) 「ガチャン」という音から怒られる思いと逃げ出した進一郎の気持ちに共感させる。</p> <p>◇前段BGM (不安な様子のオルゴール)</p> <p>◇場面絵を使い、進一郎のとった行動を振り返らせ、過ちを犯してしまった後の行動を考える。</p>

～資料後半を聞く～

話し合うことにより多様な考えに触れ、価値の理解が深まったか。

(3) 進一郎が謝ろうと決心したわけを考える。

◎進一郎はどうして謝ることにしたのでしょうか。

おじさんに話して見よう。

3 自分自身に向き合う

書く活動を通し、今までの高められた価値に照らして、自分自身を振り返ることができたか。

◎「みんなで心のつなひきを考えてみよう」正直に言いたい心と言えない心のつなひきです。それぞれの気持ちが勝つとどんな気持ちがするでしょう。

心のノートのつなひきを記入

4 これまでの自分を振り返り、発表する。

◎これまで、進一郎を通して失敗したときどうすればよいか考えて来ました。進一郎のようにあやまったことがありますか？自分の経験を書きましょう。



◇進一郎の心の迷いに共感させる。

◇スケール表で進一郎の心情を確認する。

◇心配や不安な気持ちなど、進一郎の気持ちを自分の言葉で表現させる。



◇吹き出しの進一郎の気持ちを考えさせる。



◇自分の中にある道徳的価値を見つけることができるように自活動の工夫をした。



5 教師の説話を聞く

◎その場を何とかしようと思った女の子のうそが逆に大好きなお父さんを悲しませてしまいました。その後、女の子がどうしたかについて今日の「ガラスまどと魚」の主人公の気持ちと合わせながら聞いて下さい。

◇ワークシートの工夫

しっばい・あや
まちをしてし
まったこと

その後、とった
行動

行動を
おこしたあと
の気持ち

◇自分の中にある価値を見つけることができるように自分の生活をみつめさせる。



◇教師の体験を詩にまとめ、子ども達に伝えた。

(7) 授業のまとめ・反省

児童の実態把握のためのアンケートで、「うそをついたことがありますか？」の質問に対し、「ある」と答えたのはわずか6名だった。そこで、友だちが失敗したという仮定の上での「この友だちはどんな行動をとるでしょう。」という問いを用いた導入から入った。第3者のこととして発問すると、冷静に答えられるということがわかった。

自分を見つめる視点から、自分に関してのことを是非取り扱いたかったが、自分を客観的に捉えることが3年生の段階では、かなり難しいことがわかった。

読み物資料に関しては、ワークシートの感想の部分より自分を振り返った感想が9割を占め、十分に自分のことを見つめる時間になった。

Ⅸ 研究のまとめ

1 研究仮説(1)の検証

教材の選択や発問の工夫をすることにより、道徳的価値を自分のものとして捉えられるだろう。

(1) 検証の視点①：積極的に学習に参加できたか。

- ① 授業1「友だち屋」では、副読本で扱っている教材を絵本の読み聞かせをとして題材とした。コの字型の座席にし、気軽に話せるような工夫をした。



「友だち屋」

児童の感想

- ・ とても、おもしろかった。
- ・ 読み聞かせをしてもらって、おもしろかった。
- ・ 楽しかった。

教師の観察

みんなで絵本に近づき集中して聞いていた。コの字型にすることにより、キツネの表情やオオカミの表情に対し、友達と顔を見合わせて、ビックリしたりつぶやきを聞き取り合ったりしていた。

- ② 授業2は、大型紙芝居を使い、児童との距離を近くすることで児童の集中力と理解を助け、授業に集中させた。BGMとして「千の風になって」を流すことによって雰囲気作りをした。



「かわいそなぞう」

児童の感想

- ・ 「かわいそなぞう」の本をかみしばいで読んでもらいました。とても感動しました。
- ・ 私は、3匹のぞうが死んで、かわいそうと思って、泣きました。戦争が無ければ生きられたのに・・・

教師の観察

大きな紙芝居にクラスみんなは体を寄せて、大きな象が倒れる様子をしっかりと捉えたようである。途中で感極まって涙をぬぐう児童も見られた。

- ③ 授業3は、資料提示を前半・後半にわけ、過ちを犯してしまったあとの進一郎のとるべき行動を考えられるようにした。話の流れを視覚的に捉えやすくするため板書を工夫した。



「まどガラスと魚」

児童の感想

- ・ 楽しかった
- ・ 最初、ガラスを割ったから、逃げたけど、お姉さんのことを見たら謝ったので、良かったと安心しました。
- ・ ガチャンというガラスの音にビックリした。

教師の観察

後半の進一郎の気持ちを知らないで児童が自分自身の考えや思いを発表しようとする姿が見られた。

(2) 検証の視点②：道徳的価値について自分と重ねて考えることができたか。

① 授業1では、キツネの場面絵の表情からキツネの心情を捉えさせた。板書のキツネの表情、オオカミの表情の拡大図を用いて、表情から感情を想像させた。

ワークシートからの児童の声

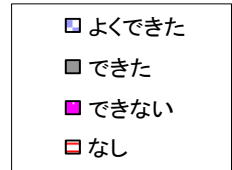
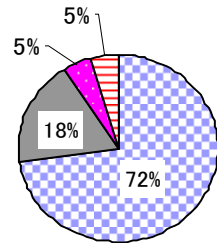
発問3 オオカミに「それが本当の友だちか」と言われてキツネはどんなことを考えたのか。

- ・ そうか、最初から友だち屋なんか呼んでいなかった。
- ・ お金何かで友だちはできない。オオカミがおこった顔で教えてくれた。
- ・ 本当の友だちじゃなければ、楽しいことが減っちゃうな。本当の友だちじゃなければこの気持ちじゃないかもしれない。

発問4 帰りにスキップをしながらキツネはどんなことを考えたのか。

- ・ ニコニコしたキツネは友だちがいなかったのが友だちと言われて嬉しかった。あと、明日もあさっても来ていいよと言われてとても嬉しかった。
- ・ キツネが友だち屋ならもう会えないけど、今は、本当の友だちだから一人ぼっちじゃないからまた会えるから嬉しくなってスキップで帰ったと思います。

キツネの気持ちを考えることが出来たか



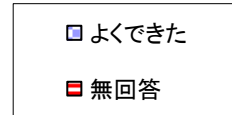
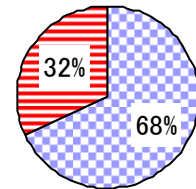
② 授業2は、「かわいそうなぞう」の感想を紙芝居のシーンと重ね合わせるにより飼育員の気持ちを捉えさせた。

ワークシートからの児童の声

発問：芸を見た飼育員は、どんなことを考えたのでしょうか。

- ・ ひどい仕打ちをしたのに頑張ってくれてありがとう。
- ・ 戦争がここにも来るんだ。象も死ぬしかない。すまない。
- ・ あんなにひどいことをしたのに一生懸命頑張ってくれてありがとう。

感想を持つことが出来たか



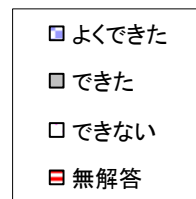
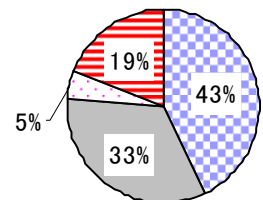
③ 授業3は、資料提示を前段・後段に分けることで過ちを犯してしまったその後のとるべき行動を考えさせ、板書の資料提示とワークシートの工夫をした。

ワークシートからの児童の声

発問：進一郎は、どうしてあやまる事にしたのだろう。

- ・ ずっと、あやまらないとその家の人におこられると思ったから。
- ・ ガラスを割ってしまいました。ごめんなさい。
- ・ おじさん、まだガラスをわったから正直に謝りに来たよ。
- ・ さっきのお姉さんみたいに正直になりたいからぼくもあやまりに来たよ。
- ・ 正直に言った方がいいと思って謝った。
- ・ 最初、ガラスをわってしまって正直にいうことが出来ずに逃げたけど、お姉さんの行動を見て謝らないといけないことに気付いた。

進一郎の気持ちになって考えることが出来たか



(3) 考察

検証1-①は「積極的に授業に参加できたか」という視点で検証を行った。児童の感想や授業の様子から、興味を持って授業に参加できたことがわかる。絵本や紙芝居、BGM、資料提示の工夫を工夫することが有効であったと考える。

検証1-②は「道徳的価値について自分と重ねて考えることが出来たか。」という視点を持ち、児童の声と自己評価により検証を行った。授業1では、キツネやオオカミの気持ちを考えることができたと言う児童が7割いて、拡大図や吹き出しの効果が出ていると考える。

授業2では、「かわいそうなぞう」の紙芝居を聞いて感想を持つことができた児童が7割以上である。授業中、発表は少なかったけれどワークシートの考えに多くまとめられていた。授業中、教師の発問に対して児童が答える場面で「このシーンですか？」と声をかけると他の児童も「同じシーンで飼育員の人の気持ちを考えたけど理由が違うな」の声もあり、友だちの考えの違いを捉えている児童も見られた。

授業3では、7割以上の児童が、進一郎の気持ちになって考えることができたと答えている。主人公に葛藤が起こった前半までの資料提示をし、自分ならどう解決していくか、どうすることがよいのかと自分自身に向かわせ、クラスで話し合うことができた。友達のいろいろな考えに触れ、その後の展開への期待が高まり、後半への学習の興味・関心へと繋げたと考える。

視点①、②による検証から、教材の選択や発問の工夫をすることにより、道徳価値を自分のものとして捉えられたと言える。

2 研究仮説(2)の検証

書く活動を通して自分の考えをまとめさせたり、自分を振り返らせたりすれば自分を深く見つめることができるだろう。

(1) 検証の視点①：自分の考えを書くことができたか。

① 授業1では、役割演技で価値を捉え、自分の考えをまとめさせた。

ワークシートからの児童の声

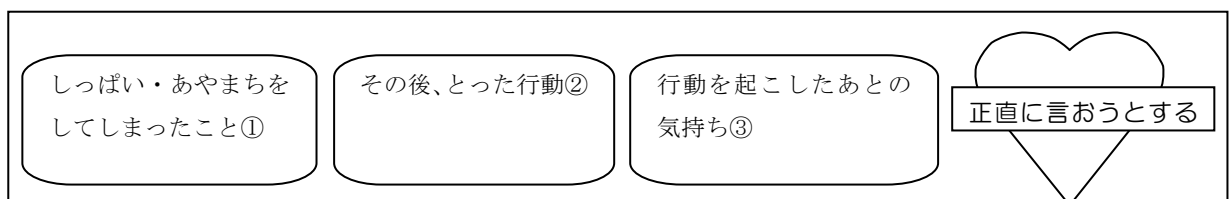
- ・ 本当の友だちだったら一緒にいてケンカしても仲直りして仲良くする友だち
- ・ 一緒に遊んだり、助けたり、優しくしてくれたり色々やってくれるのが本当の友だちだと思います。

② 授業2では、感想から生命について自分の生活と照らし合わせるにより、自分の考えを書かせ、自分を深く振り返えらせた。

ワークシートの児童の声

- ・ 戦争がなければ、死なずにすんだのに戦争は嫌です。
- ・ Mさんの赤ちゃんがかわいかった。赤ちゃんは大切だね。
- ・ 私は、Mさんの作文を聞いて、「赤ちゃんってすごいな～」と思いました。

③ 授業3では、ワークシートの工夫により項目ごとに書かせ自分のことを見つめさせた。下の図が項目ごとに書く活動を促したワークシートの図である。

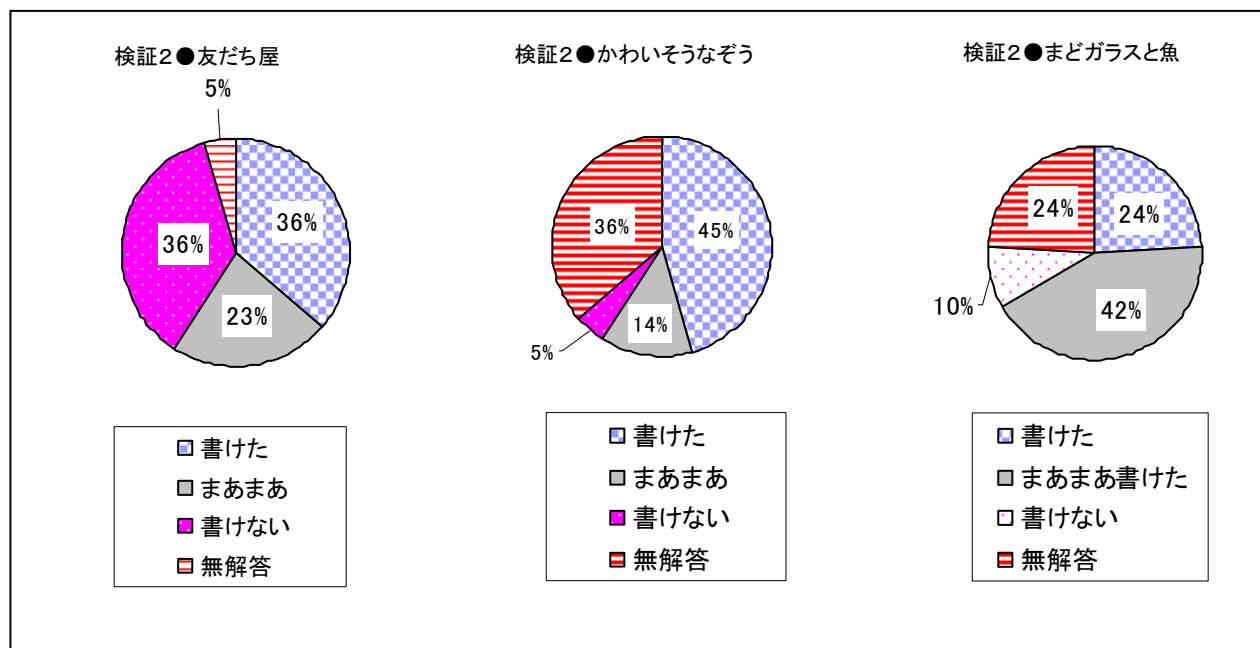


ワークシートの児童の声

- ①ボールを投げたら、窓にあたった。②その人家に行って謝った。③正直に謝れて心が嬉しくなった
 ①友達のをりを無くした。 ②謝り行った。 ③正直に言うと心が軽くなりました。
 ①部活でボールを間違った人にあてた。 ②その人の前にいってあやまった ③いい気持ち
 ①学校の鉛筆削りを詰ませた。 ②先生に謝りに行く。 ③先生が許してくれて心がすっきりうれしくなった。
 ①友達のをりを借りて間違えて壊した。②友達のところに行ってあやまった。③許してくれたから心がすっきりした。

(2) 検証の視点②：道徳的価値に照らして自分のことについて書けたか。

検証授業1・2・3で書く活動を通し、今までの高められた価値に照らして自分自身を振り、自己評価させた。



(3) 考察

児童の自己評価の中で、「書けない」と答えた児童や無解答の割合が多い。しかし、「書けない」ということは、ワークシートを全部書いていないということであり、何も書けなかったということではない。書く時間を充分にとらなかつたためだと考えられる。授業の様子、ワークシートの状況から分析すると、自分なりの表現で何かしらの考えを書いている。これは、ワークシートの工夫や資料提示の仕方などにより、書く活動が増えてきたといえる。また、感想では、自分の考えていることに理由を添えて書くようになっている。

授業1では、2つの発問に対してほとんど児童が自分なりの答えを書いていた。役割演技をして、自分の考えに気づき、ワークシートを書く場面も見られた。

授業2では、動物園の話とクラスの妹・弟の誕生の話から、77%の児童が命について自分なりの感想を書くことができた。自分の生活に照らし合わせて、生命について考えられていることを示している。

授業3では、時間が数分程度だったにもかかわらず、項目を分けて書き入れる方式で書く活動を促すと多くの児童が記入することができている。①、②、③と各項目を全部記入できた児童は7割程度だが、①、③や①だけという児童を含めるとほとんどの児童が書けるようになっている。また、他の授業より項目を分けたワークシートを使う方が価値を捉えた感想が増えている。

3回の授業は、すべて書く活動にワークシートを取り入れてきた。役割演技、友達の作文、ワークシートの工夫と書く活動を促す指導方法は変えた。児童はそれぞれの指導方法についての感想・

さらに自分の気持ちも書くことが出来ている。それは、自分を深く見つめていることであり、道徳的価値の自覚の深まりでもある。

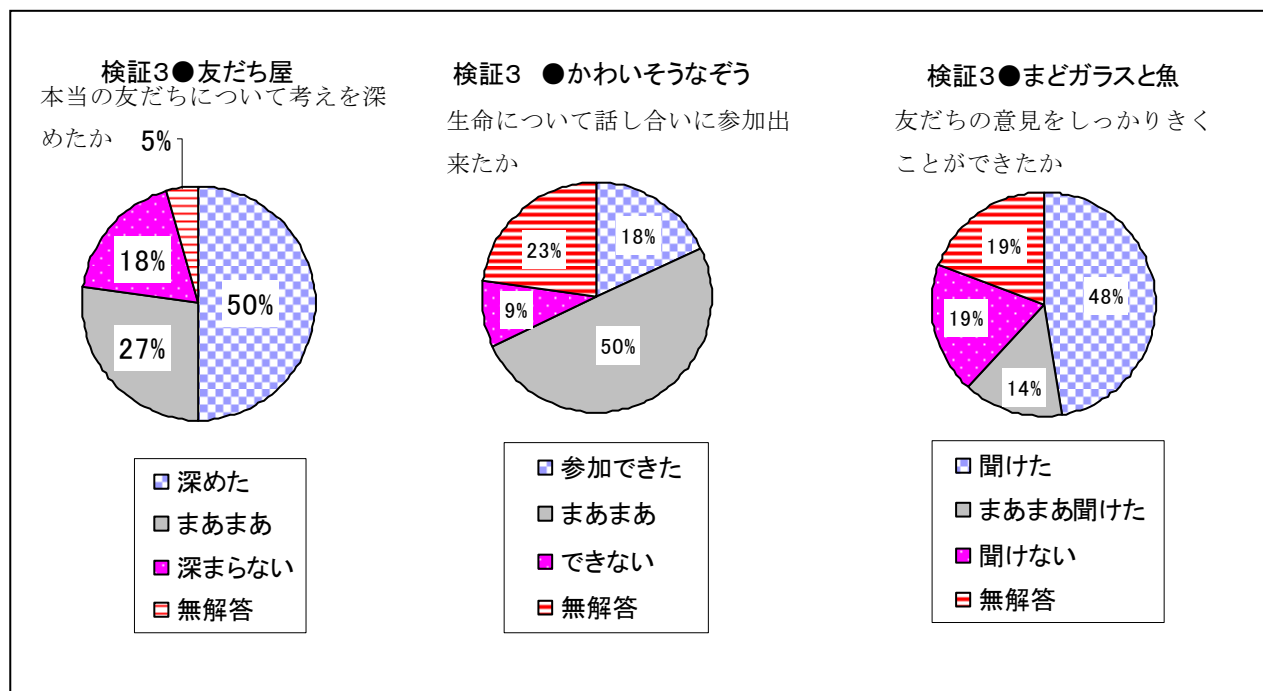
以上のことにより、書く活動を通して自分の考えをまとめさせたり、自分を振り返らせたりすれば自分を深く見つめることができると言える。

3 研究仮説(3)の検証

話し合い活動で、他者の考えに接し認め合い伝え合うことが出来れば、自分自身の心と向き合ったり、これまでの行動を振り返ったりすることができるであろう。

(1) 検証の視点①：積極的に話し合いに参加できたか。

自己評価は以下のようにになっている。



(2) 検証の視点②：話し合いによって、考えを深めることができたか。

① 授業1では、役割演技を使ってキツネとオオカミの気持ちを考えさせた。



ワークシートの児童の声

- ・ 今日、キツネとオオカミの役割演技をしました。とても楽しかった。
- ・ キツネとオオカミの役をやってキツネの気持ちがわかった。
- ・ キツネとオオカミの気持ちになって役割演技をして楽しかった。

② 授業2では、象や飼育委員の気持ちを考えながら、話し合い活動をした。話し合いの際、「友だちの意見を良く聞く」ということに視点をおいて自分の考えと比べさせた。

ワークシートの児童の声

- ・ AくんとRくんの考えは、とてもやさしい
- ・ 私は、友達のことを聞いて、戦争はとても怖いんだあとわかりました。

- ③ 授業3では、進一郎のこれからの行動を考えさせた後、話し合いをさせ、多様な考えに触れさせることにより、道徳的価値の理解が深まったか。

ワークシートの児童の声

- ・進一郎は正直に謝って本当によかった
- ・「正直になる」気持ちは、大切だなと思った。
- ・正直に言うことが大切だということに気付いた。
- ・謝らないと心が重くなることがわかった。
- ・「まどガラスと魚」の勉強をして、私もこれから正直になろうと思いました。
- ・今日はいろいろな心の綱引きを勉強してとても楽しかった。

(3) 考察

話し合いは、児童相互の考えを深める中心的な活動であり、自分を見つめさせるために最も期待される指導方法である。話し合いは、座席の形態にも関わって来るので、それぞれの話し合いの目的に合わせた座席にした。自己評価の集計によるとすべての授業において、話し合いに参加できたとする児童が50%に留まっている。ワークシートの書く活動と同様に考えは持っているものの発表ができないという児童が何人か見受けられた。話し合いにつなぐ補助発問の必要性を感じた。また、道徳の時間は、答えに対する誤答を確認する時間ではないことの重要性を感じ、挙手も指名もしない自由発言方式で話させ、児童のつぶやきを話し合いにつなぐよう努めた。

授業1では、役割演技の初めは、少し照れた様子でキツネの役割、オオカミの役割を読んでいった。しかし何度か繰り返し活動を行うごとに身振り手振りを加えるという児童も見られた。「なぜ、この身振りを入れたのですか。」の問いに「とっさのキツネの反応を表そうとしていたら自然にこんな風になっていたよ」という声があった。

授業2では、紙芝居を用いて、児童の意見に合わせて場面をめぐり確認しながら話し合いを進めた。同じ場面でも意見の違いがあったり、同じ意見でも場面が違ったりとそれぞれ人の感じ方は違うということに気付いている児童も見られた。また、児童の声からもわかるように自分との考えの違いに感心したり、新しい考えを認めたりする発言も多く見られた。

授業3では、ワークシートを全部記入するということができない児童が目立ったが、活動が多く書く活動の時間がとれなかったためだと考えられる。しかし、感想を含め、ワークシート全部から理由付けをする感想が増え、その中のほとんどの児童が道徳的価値に触れていた。そのことから、道徳的価値の理解が深まったと考える。

発表することが苦手な児童が多く、集計では「積極的に話し合いに参加できない」と答えている児童が多いが、ワークシートにはたくさんの記入があり、友達の見解から自分の考えを深めている児童もたくさんいる。

以上のことから話し合い活動で、他者の考えに接し認め合い伝え合うことが出来れば、自分自身の心と向き合ったり、これまでの行動を振り返ったりすることができると言える。

4 研究の成果と課題

(1) 成果

- 道徳的価値の理解を深めたり自分を見つめさせたりすることで、児童の興味を引き、意欲的に授業に参加させることができた。
- 役割演技を通して、資料中の主人公の心情を共感的に捉えさせることにより、道徳的価値を自分のものとして捉えさせることができた。
- 各指導過程で適切な時間を与え、ワークシートの工夫により書く活動を充実することで自分

の考えをまとめたり、自分のことを振り返ったりすることができ、自分のものとして捉えた道徳的価値をさらに深めさせることができた。

- 話し合い活動を通して、自分の考えていることを伝え、その考えを基に友達の持つ異なる意見を聞くことで、道徳的価値の理解を深める「これからの生活に生かそう」「将来の生き方を考えよう」という道徳的実践意欲を高めていくことができた。

(2) 課題

- 資料選択や発問の工夫をさらに研究し、興味・関心を高め、多様な意見や考え方を引き出し、自分の心を深く見つめさせる必要がある。
- 書く活動を充実させるため、自分の考えを書くことが苦手な児童でも思ったことや具体的な行動を書けるようなワークシートを作る必要がある。
- 他教科との関連や体験活動を生かした年間計画を作成することにより、道徳の実践意欲と道徳的実践が相互に高まる場を充実させる。

5 おわりに

本研究では、道徳の授業を通して、道徳的価値の自覚を促し、自分の生き方についての考えを深めるために自分を見つめさせる手立てを取り入れた授業を構想し、実践しました。

道徳の時間を児童の心を豊かに育むことのできる時間にしたいという思いで、取り組みました。その結果、自分を見つめさせる手立てを意図的に位置づけることで道徳的価値の自覚を深め、人間としての生き方について考えさせることで、道徳的価値が深まり、道徳的実践意欲が高まるということが検証できました。

授業を通して、自分を見つめさせる手立てを与えるとき、児童の実態を把握することが最重要視されなければいけないことを感じました。それは、実態把握をする場合、児童はアンケートの質問の意味が分からずに回答してしまうこともあり、正確な実態把握にならない場合もあったからです。アンケートは、児童の理解できる言葉を選ぶことと何を聞いているのか道徳的価値の背景なども説明しながら、発達の段階に即して行わなければならないことを知りました。

3回の授業実践を通して、ワークシートから読み取れる児童一人一人の心は曇りもなく、道徳的価値を捉えようとしたものばかりでした。しかし、児童のなかには書く活動が苦手な児童もいて、自己評価では『書けない』と記しています。その児童の感想に「問題には、答えられなかったけど沙織先生と正直な心の勉強ができて嬉しかった。」という児童の声がありました。書くという表現活動が苦手な児童も確実に心が育っていることを実感しました。1時間の授業で、児童の声を拾い、児童の声を育みながら児童の考えを確立していくように、児童の様子を教師が見つめる目を持つことも大切だなと感じました。また、道徳の主人公の気持ちになって考えるという場面での問題に答えるという児童の捉え方に発問の難しさを感じました。

自分を見つめさせる手立てを持って、道徳的価値の自覚を深め、人間としての生き方を考えるような道徳の授業を積み重ねていくことにより、児童は自分自身の生活と結びつけ、自分の将来の姿を思い描きこれからの生き方の希望へと結びつき、道徳的実践へとつながっていくものだと考えました。

道徳の授業をすれば、その後すぐに児童は変われるというわけではなく、道徳の授業がこれからの生活で児童が直面する困難に自分が出来ることを考え、よりよい生活、自分のよさを発揮し、児童相互、その他の関わりを大切に重んじる児童の心を育むきっかけになれば幸いです。

私自身、この半年間、自分自身のこと、他の人との関わりについて、自然や崇高なものとの関わりについて、集団や社会との関わりについて自分を振り返りながら研究に取り組んできました。学級に戻ったら多くの児童が自分のよさを発揮できる学級になるよう児童の心の有り様を大切にしていきたいと思います。

【主な参考文献】

- 文部科学省 2008 8.31 『小学校学習指導要領解説 道徳編』 株式会社東洋館出版社
- 坂本哲彦 2006 10.26 『自己評価点からの自分を見つめる発問のあり方』 学事出版株式会社
- 柴田 義松 2009 8.17 『道徳の指導』 株式会社 学分社
- 永田 繁雄 2006 2.05 『「じぶん」「いのち」「仲間」を見つめる道徳の授業』 教育出版株式会社
- 永田 繁雄 2007 9.04 『研究授業シリーズ教師の授業力アップのために
研究授業 小学校道徳 中学年』 明治図書出版株式会社
- 永田 繁雄 2009 2.25 『新学習指導要領の趣旨を生かした 新しい自分に出会う道徳の学習
学ぶことが子どもの喜びにつながる道徳の学習にするために』
株式会社東洋館出版社
- 永田 繁雄 2009 8.17 『小学校道徳板書で見る全時間の授業のすべて』 株式会社東洋館出版社
- 永田 繁雄 2009 7.15 「道徳授業の可能性を拓く」『道徳と特別活動』 株式会社 文溪堂
- 長谷部桂一 2009 6.20 『自分を見つめる道徳授業』
～自尊心を高める『自己問答』 株式会社 日本標準
- 林 泰成 2009 3.20 『道徳教育論』 財団法人 放送大学教育振興会

資料

道徳学習指導案

日 時 平成21年 6月12日 金 5校時
対 象 宮古島市立伊良部小学校
3年1組 男子11名 女子11名
授業者 下地 沙織

1 主題名 本当の友だち 2－(3) 友情

2 資料名 「友だち屋」 『3年性の道徳・沖縄県版』文溪堂

3 ねらい

読み聞かせや役割演技を通して本当の友だちとは何かということについて考えさせることにより、よい友だち関係を築いていこうとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

本主題でねらいとする価値は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容項目2－(3)「主として他の人とのかかわりに関すること。」の「友だちと互いに理解し、信頼し、助け合う。」ことを受けたものである。

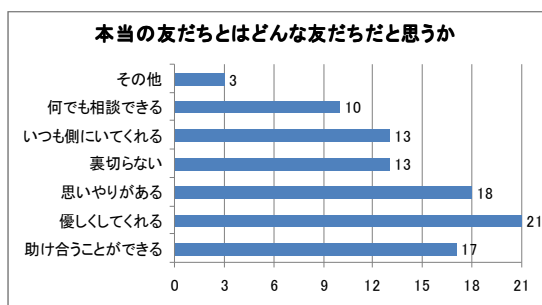
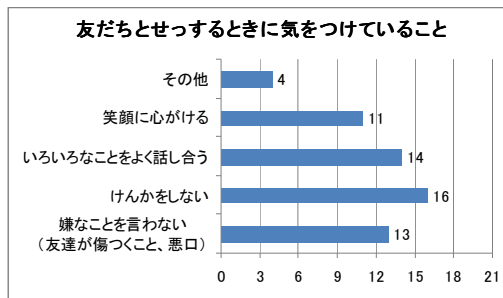
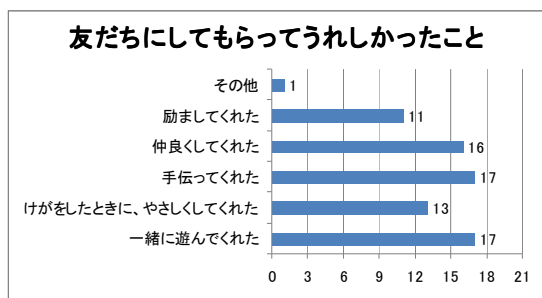
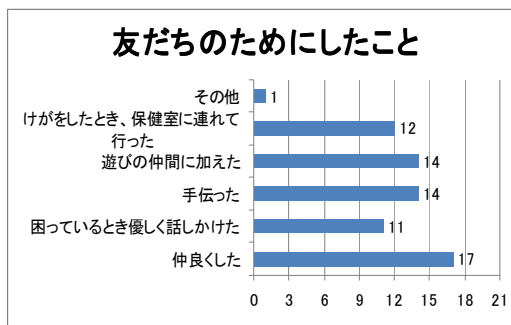
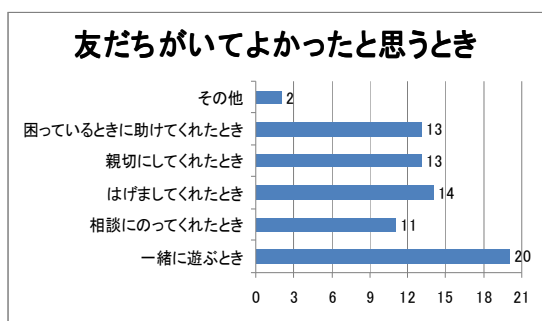
中学年になると、行動範囲が広がり、交友関係も広がってくる。友だちは、児童にとって、家族同様、身近な存在であり、大切なものである。しかし、目先の損得やその場の楽しさばかりを求めて友だちとつきあってしまう児童も多い。相手の立場に立ち、相手のことを思いやり理解したりすること、自分の思いを伝えることが、互いを理解し、信頼することへつながる。

学校生活のあらゆる場面を通して、相手のよさを認め、理解し、助け合うことで友情を深めて行くことができる。児童にとって友だちの存在は非常に大きいもので自分が相手に受け入れてもらったときには心の安定につながる。これまでの友だちとの関わりを見直し、真の友情を目指して欲しい。

(2) 児童観

本学級の子ども達は、ほとんどの児童が幼稚園からずっと同じクラスで男女仲良く、元気なクラスである。友だち関係を見てみると、帰り道、部活動など行動を共にする仲間を「友だち」と捉えている。

本学級の児童が友だちについてどのような意識を持っているか。事前に意識調査を行った。以下は、その質問内容と主な回答である。



友だちについての事前アンケートでは、「友達がいて良かったとおもうときはどんなときですか？」の問いにクラスのほとんどが複数の項目を選んでおり、「友だちがいて良かった」と感じていることがわかる。その中でも、「一緒に遊ぶとき」と答えているのは、95%であり、行動を共にすることが大切なことだと考えている。

「友だちのためにどんなことをしたことがありますか？」「友だちにもらったことでどんなことがうれしかったですか？」では、多くの児童がほぼ同じ項目を選んでおり、自分がしてもらってうれしいことを友だちにもしているということが分かる。

「友だちと接するときにどんなことに気をつけていますか？」の質問は、友達関係を続けるために大切なことを問いた質問である。ここでは、半数以上の児童が複数項目を選択しており、友だちと接するときいろんなことに気をつけている様子が見られる。

「本当の友だちとは、どんな友だちですか？」では、「思いやり」、「優しく」、「助け合う」、をほとんどの児童が選択しているが、「裏切らない」、「いつも側にいてくれる」、「何でも相談できる」の比較的深い部分に関しては、半数の児童が選択するに終わっている。

(3) 資料について

「友だち屋」を始めたキツネは、クマに呼ばれて無理して嫌いなイチゴを食べてお金をもらった。次に出会ったオオカミとトランプをしてキツネが「お代は？」と言うと「友だちからお金をとるのか？それが本当の友達か？」と言われてしまう。帰りのキツネはスキップで明日もあさってもオオカミに会うことを約束し楽しそうである。

無理をして友だちになっても、ちっとも楽しくないこと、「本当の友だち」と言われたときの喜びを十分にとらえさせたい。キツネがこれからどういう気持ちで友だちと付き合うだろうかを考えさせたい。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、キツネの表情も参考にさせることで理解させたい。また、役割演技で主人公のキツネと自分自身を重ねることで、より深い理解に導きたい。

展開後段では、資料から捉えた価値を自分の生活に生かせるよう、事前アンケートと授業後の友だちという観念の違いを振り返りながらまとめさせ、ワークシート2に書かせる。それを基に発表し「本当の友だちっていいな～。この友だちとの関係を大事に育てていきたい。」ということを実感させたい。

3年生になって、2ヶ月がたち、中学年として活発になるこの時期に「友だち屋」の資料に出会わせることで、今までの自分と友だちとの関係を振りかえさせ、真の友情について考えるきっかけにしたい。

(5) 他教科・他領域や日常指導などとの関連

学級活動で「友だちのいいところみつけ！」で、児童相互のよさを見つけカードに書いて送ることを行っている。休み時間になると、自分のカードはだれからきているかな？と確かめる様子もうかがえる。

「友だちのいいところみつけ」は、友だちの良さを友だちの言葉で褒めてもらうことにより、自己肯定観が高まり、自信を持って自分の意見を発表できたり、間違いを注意してもらったり、学級の雰囲気作りに大きく関わっている。他の友だちから、友だちの良さを発表してもらうことにより、「気づけなかった自分のよさ」「気づけなかった友だちのよさ」など自分を振り返る時間にもなっている。

5 授業仮説

- (1) 副読本の挿絵を拡大して説明を加えながら、読み聞かせすることにより、価値が捉えやすくなるだろう。
- (2) 役割演技をさせることにより、キツネの心情に近づけ、価値の理解を自分のものとして捉えるだろう。
- (3) 自分の考えをワークシートに書く活動を充実させることにより、自分を見つめ、より良い友達関係を築こうとする意欲をもつだろう。

6 展開

	学 習 活 動 □ 検証の視点	○主な発問と ・予想される児童の反応	教 師 の 支 援
導 入 5 分	1. 友だちに関する事前アンケートについて結果を見て考える。	○あなたにとって友だちとはどんなものですか？ ・笑わせてくれる人 ・ゲームを貸してくれる人 ・帰りがいっしょの人	◇事前アンケート総合結果を掲示する。 ◇事前のアンケートより自分自身を振り返り、ねらいとしての価値への方向付けをする。

<p>展開前段 20分</p>	<p>2. 「友だち屋」を聞く</p> <div data-bbox="261 282 600 501" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>キツネの場面絵の表情から道徳的価値を捉えているか。 (観察)</p> </div> <p>3. オオカミに「これが本当の友だちか。」言われたときのキツネの気持ちを考える。</p> <p>隣同士キツネとオオカミになって、役割演技をする。</p> <div data-bbox="261 1193 600 1384" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>役割演技を使って道徳的価値を自分のものとして捉えたか。 (ワークシート1 ③)</p> </div> <p>ワークシート1 発問③に記入</p>	<p>① キツネはイチゴでしくしくするおなかをおさえながら何を思ったのでしょうか。 (補キツネさんの顔を見てごらん)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イチゴは、まずい ・嫌いなイチゴでも、お金のためだから食べないといけない。 <p>② オオカミとトランプをしながら、キツネはどんなことを思ったか。 (補たくさんのキツネとオオカミの顔を見てみよう。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結構、楽しい！やった～勝った ・ 早くお金をもらって帰ろう。 <p>最後まで読み聞かせする。</p> <div data-bbox="643 907 1102 1126" style="border: 1px solid gray; padding: 5px;"> <p>③ オオカミに「それが本当の友だちか。」と言われて、キツネはどんな気持ちになったのか。役割演技をして考えましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ハッとした。お金で友だちをすることは、できない。 ・ 本当の友だちなら、お金はいらない。 	<p>◇児童と語り合う雰囲気を読み聞かせし、児童の声を拾って、読み進める。</p> <p>◇キツネの場面絵の表情からお金をもらうため、無理してイチゴを食べているキツネの気持ちを感じ取らせる。</p> <p>◇キツネの表情に注目させ、心情を感じ取らせる。</p> <p>◇役割演技は、初めにかおり先生と沙織先生行う。</p> <p>◇役割演技で共感させる。 「本当の友だち」と言われた嬉しさ</p> <p>◇机間指導の際、児童の実態に合わせて、「役割演技をしてどんな気持ちがしたかな」と補助発問をし、書く活動の充実へとつなげる。</p>
<p>展開後段 15分</p>	<p>4. 帰りにスキップしたキツネの気持ちを考える。 ワークシート2を記入する。 発問④に記入</p> <div data-bbox="261 1720 600 1910" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>場面絵や黒板板書などから道徳的価値を深められたか。 (ワークシート1 ④)</p> </div> <p>5. 自分の友達関係について振り返る。</p>	<p>④ 帰りにスキップしながらキツネはどんなことを考えたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オオカミと友だちになれた。 ・ お金なしの本当の友達を作ろう <p>⑤あなたにとって本当の友だちってどんな友だちですか。</p>	<p>自分にとって価値を深めるために</p> <p>◇ 場面絵を使い、キツネの表情からキツネのスキップの理由を考えさせる。</p> <p>自分に目を向けて・・・</p>

	<p>本時の価値と自分の生活と結びつけ、「友だちがいてよかった」と自分を振り返ることができたか。</p> <p>ワークシート2 発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも部活で一緒の〇〇〇のことを<u>大切</u>にしたいと思った。 ・友だちに<u>優しく</u>にしたいと思った。 	<p>◇事前アンケートの友だちと今日の学習を振り返っての友だちについての価値がどう変わったか考えさせる。</p>
<p>終末5分</p>	<p>6. 詩を聞く。</p> <p>7. 自己評価</p> <p>感想を書く。</p> <p>ワークシート2</p>	<p>詩の紹介須永博士さんの「ともだち」</p> <p>○ 詩の紹介</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いいな～。僕も〇〇君と保育園からずっと友だち <p>(補 絵本のことでも、自分の気持ちでも、これからの自分のことでも、今の気持ちを自由に書きましよう。)</p>	<p>◇拡大の詩を用意する。</p>

7 評価

- ・ キツネの心情の変化に共感できたか。
- ・ これまでの自分を振り返り、自分の考えを書いたり、発表したりすることができたか。
- ・ 本当の友だちについて考えを深めることができたか。

8 板書計画

友だち

やさしい人

遊んでくれる

たよれる人

はげましてくれる人

勇気をくれる人

わらってくれる人

たよってくれる人

オオカミとほんとうの友だちになれた。

④ 帰りにスキップしながらキツネはどんなことを考えたのか

③ オオカミに「それが本当の友だちか」と言われてキツネはどんなことを考えたか。

ハツとして、お金友だちはできない


② オオカミとトランプしながらキツネはどんなことを思ったか。

① イチゴを飲み込みながら、キツネはどんな気持ちでしたか？

友だち屋

友だちとは・・・
 ・いつもいっしょ
 ・やさしい人

イチゴは、ま
 ずいな
 早くお金をも
 らって帰ろう。



発問⑤ 本道の友だちってどんな友だちですか、？

☆ 今日の道徳の時間の学習を通して・・・

◎ ○ △	
キツネやオオカミの気持ちを考えることができたか、	
これまでの自分をふりかえり、自分の考えを書いたり、発想したり	
することができましたか、	
ほんとうの友だちについて考えを深めることができましたか、	

今日の感想を書いてみよう！

3年 名前

役割分担 キツネとオオカミになって対話をしてみてください。

☆キツネ「あのう・・・」キツネは、申しわけなさそうに声をさし出しました。

◎オオカミ「なんだい、友だち。」

☆キツネ「まだ、お代をいただいていないのですが・・・」

◎オオカミ「お代だって！」とたんにオオカミは目をとがめました。

◎オオカミ「と、友だちから金を取るのか、それが本道の友だちか。」

オオカミはきばをカチカチ鳴らしました。

☆キツネ「は、ほんとうのともだち？」

◎オオカミ「そうだ、はじめから、友だちなんか呼んでないぜ。」

そういえば、オオカミは、「おい、キツネ。」とよんだのです。

☆キツネ「それじゃ、朝目も来ていいの？」

キツネは、そつと手を引っぱらめながらきました。

◎オオカミ「あきってもな、キツネ。」

発問②

オオカミに「と、友だちから金を取るのか、それがほんとうの友だちか。」と書わ
れて、キツネはどんなことを考えたのか、

発問③

繰り返りにスキップをしながらキツネはどんなことを考えたのか書いてみましょう。

道徳学習指導案

日 時 平成21年 6月25日 木 2校時
対 象 宮古島市立伊良部小学校
3年1組 男子11名 女子11名
授業者 下地 沙織

1 主題名 大切な命 生命尊重 3－(1)

2 資料名 絵本「かわいそうなぞう」 金の星社 土屋由岐雄 著

3 ねらい

生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値

本主題でねらいとする価値は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容項目ことを受け「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする」ためのものである。

人は、一人にひとつずつ「かけがえのない命」を受けて、この世に誕生した。しかし、幼児虐待、自分の親を殺傷する事件、子どもの自殺、命を粗末にしている事件が次々に起こっている。児童は、命をゲームで育て、復活があると考えている傾向もある。6月は、沖縄にとって、唯一の地上戦となつて、悲惨な体験をした島である。地上戦のあつた沖縄に生まれた子ども達にとって戦争の恐ろしさを学習することは、とても大切なことである。子ども達も大好きな動物園は、平和だからこそあるということ、また、悲惨な時代の中にも動物の命を守ろうとした人がいる優しさを感じ取ってほしい。

今、この世に自分が存在しているということは、おじいちゃん、おばあちゃん、お父さん、お母さんから命を受け継ぎ尊いものだとということを感じさせたい。生きることの喜びや生きていることへの感謝の気持ちをしっかり自覚させて、自分をじっくり見つめ、生命のすばらしさについて深く考えさせたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、日頃、あまり生命について自分のことと感じているわけではない。しかし、親戚の赤ちゃんを見てきたよ。小さな手だけど動いてた。と新しい命を感じている児童も何人かはいる。また、世の中で起こっている事件・事故、自然災害に対し朝の会のスピーチで話す児童もたびたび見られる。他にも、理科の学習で昆虫を育てたり、学校の周りの小動物の世話をしたり、生き物の命を感じて行動している児童は多い。少人数ではあるが蝶の羽化の様子、変化を友だちや先生に話して、羽化できなく死んでしまう命を悲しむ、どんな小さな命でもいなくなってしまうと悲しいという体験をした児童もいる。ただ、その中の多

くが他人事と捉える部分が多い。

そこで、この時期に、生命は唯一のものであり、他の何ものよりも大切にしなければならないとする心情を育てることが大切になると考える。

(3) 資料について

本資料は、昭和18年。戦争が激しくなる中、上野動物園の象「トンキーとワンリー」を殺すよう命令された飼育員の福田さんはトンキーとワンリーの命を守ろうとするが、うまくいかず、30日も水・えさを与えられなかったトンキーは死んでしまう。

戦争のために動物園にいた象たちが殺されてしまうお話です。戦争のために、人間でさえ食料が手に入らない時代、大きな動物は次々と殺されてしまいます。「命を粗末にしてはいけない」ということが動物園の人たちのどうしようもない思いが伝わってきます。人間が始めた戦争のせいで動物たちが殺されるのです。戦争の悲惨さを教えてくれる絵本です。

動物園の人たちの優しさに触れ、戦争時代であっても命を守ろうとした人がいたことに気づかせたい。

(4) 指導にあたって

指導にあたっては、「命は大切だ」という当たり前の道徳的価値をどう、自分のかかわりで捉えさせるか「自覚」できるようにするために、導入で動物園の親子の写真、クラスの最近生まれた妹とお母さん写真を用い、自分自身との体験を振り返らせ「生命」について感じたことを素直に語らせる。「かわいそうなぞう」の動物の命を戦争中であるために殺さなければならない現実に触れ、動物にも家族がいること、かわいがっている飼育係のおじさんがいること。そこで自分のペットや生き物を飼う経験など自分自身の振り返りも十分に出来る内容であると考え。今日の学習で感じたことを補ったり、深めたり、まとめたりすることで「これから命を大切にする生き方をしていきたい」という意欲や態度を高めるような話し合い活動を工夫したい。

関連する指導

人権の日 「平和について考えよう」

平和週間 パネル展見学・講話

国語 「わたしと小鳥とすずと」「平和に関する詩・標語」

道徳 本時 「かわいそうなぞう」

国語 3年とうげ

今月の歌 「月桃の花」

朝の読書の時間 命や戦争に関する本の紹介や読み聞かせ

5 授業仮説

- (1) 「かわいそうなぞう」の絵本を紙芝居にし、心の残った場面を絵を使って話し合うことにより、価値が捉えやすくなるだろう。
- (2) 話し合い活動をする事により、友だちの意見に触れ、多様な考えを引き出すことで自分を見つめることができるだろう。
- (3) 導入・終末で生命について生活と照らし合わせ自分のことを振り返る事により、自分の考えを書くことができるだろう。

6 展開

	学 習 活 動 □ 検証の視点	○主な発問と ・予想される児童の反応	教 師 の 支 援
導 入 5 分	<p>1. 身近な命について、考えていることを話す。</p> <p>価値の位置づけ</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>動物・人間の親子の写真を 見て、命について自分の 考えを持とうとして いるか（観察）</p> </div>	<p>①動物園に行ったことありますか？この写真は何の写真かな？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ パンダ、かわうそ、ぞう、人間 ・ 親子、赤ちゃん <p>命について考えたことがありますか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家に家族が増えたとき。 ・ グッピーの赤ちゃんが生まれたとき <p>6月23日は、何の日ですか？ 今日は東京の上野動物園で戦争時代に本当にあったお話をします。</p>	<p>◇本時の方向付けをする。</p> <p>動物の親子の写真</p> <p>クラスの児童の親子の写真</p>
展 開 前 段 10 分	<p>2. 絵本「かわいそうなぞう」の読み聞かせを聞きながら考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>「かわいそうなぞう」 の感想を紙芝居のシー ンと重ね合わせること で持つことで価値を捉 えやすくなるだろう (観察)</p> </div> <p>感想を発表する。</p>	<p>◎物語の象の様子や係の人達の気持ちを考えながら聴きましょう。</p> <p>「今日は、飼育係の福田さんと象のトンキーの気持ちを話し合うことを通して命を大切にすることについて考えを深めましょう。</p> <p>発問 どのシーンが心に残っていますか？</p> <p>発問 考えがまとまらない人は、ワークシートに考えながら、書いてみましょう。</p>	<p>◇今日の話は、実話であることを押さえて、資料を読む。</p> <p>準備：BGM オルゴール</p> <p>◇紙芝居の感想に合わせて場面絵をめくる。</p> <p>振り返り</p>

展 開 後 段 25 分	<p>トンキーの気持ちを考える</p> <p>飼育係の人達の気持ちを考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 話し合い活動から、友だちの意見を良く聞き自分の考えと比べているか。 </div> <p>命について考える</p>	<p>発問 1</p> <p>②心配でそっとのぞく人が来ると、よろよとさくを離れ、芸当をして、えさをねだるトンキーはどんなことを考えたのでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ お願いします。食べるものをください。お腹がすきました。 ・ のどが渴きました。水だけでいいので下さい。 ・ なぜ、ごはんがないの？ ・ 芸なら何でもします。 <p>発問 2 ペア</p> <p>③芸を見た飼育員の気持ちを想像してみましよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ごめんね、お腹すいたでしょう ・ えさをあげたらだめなんだよ ・ 何とかしたいけど・・・ただ涙が出てくるよ。 ・ 戦争が悪いよ。何もできなくてごめんね。 <p>考えが出てこない場合</p> <p>○となりの友だちと話しあってみましよう。</p> <p>友だちの意見を聞いて何か感じたことはありますか？</p> <p>○自分の命を大切にするためにできることはなんでしょうか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分が動物を大切にしているかどうか考える。 ・ 今後の課題 	<p>◇主な場面での友だちの考えの違いを意識させる。</p> <p>◇一人の発表を十分に子どもたちに理解させる。</p> <p>(なぜ、そう思った) (どうしてこの場面が心に残ったか)</p> <p>① 同じ考えの子 ② 少し違う子 ③ 大きく違う子 ④ ③が出てきたら、また繰り返す。</p> <p>◇多様な考えに触れ、自分の考えをまとめる。</p> <p>◇これまでの自分を振り返り生きていることのすばらしさを記述できたか？</p>
-----------------------------	---	---	--

			自己の生活を振り返らせる。 身近な動物の命について考えているか
終末10分	作文紹介「妹が生まれた日」 「弟が生まれた日」 感想・自己評価	友だちの作文を聞きましょう！	命の尊さについて考える

7 評価

- (1) 「かわいそうなぞう」の絵本を紙芝居にし、感想を話す機会を設け、児童が話す内容の場面を紙芝居で説明を加えることにより、価値を捉えることができたか。
- (2) 話し合い活動を行うことにより、友だちの意見に触れ、多様な考えを引き出すことで自分を見つめ、生命を尊重しようとすることができたか
- (3) 導入・終末で生命について生活と照らし合わせ自分のことを振り返る事により、自分の考えを書くことができたか。

8 板書計画

友だちの意見を聞いて思ったこと

- ・ ぼくのとちがういけないけどいい意見だと思う。
- ・ 戦争は、なにかを変える

生活を振り返って生命について考えよう

- ・ 命はつながっている
- ・ 命は大切
- ・ 命は宝

「かわいそうなぞう」



生命 いのち


えさをねだるトンキーの気持ち

- ・ なんてえさがないの
- ・ 芸ならなんでもするよ

飼育員の気持ち

- ・ えさをあげられないんだ
- ・ ごめん、えさをあげられないんだ



伊良部小 3年 演劇「かいせうなぞう」

3年 番号 名前

メモ・考えまよめの部屋

発問1 「心配でそっとのぞく人がくると、よろよろとさくを離れ、返答をして、えさをねだるトンキーはどんなことを考えたのでしょうか。



Speech bubble for student response.

発問2 話を聞いた飼育員は、どんなことを考えたのでしょうか？せうせうさんに語りかけてみましょう。

Large oval for student response.

私たちの意見を聞いて感じたこと

Horizontal lines for student response.

今日の演劇の時間の学習を通して・・・	感じることできたか	じっくり考えることできた
1. かいせうなぞうの話しが興味深い感想を持つことが出来たか？	1 2 3 4	1 2 3 4
2. 話し合いや歌劇を通して、友だちの意見と自分の意見を比べることができたか？	1 2 3 4	1 2 3 4
3. 友だちについて自分の意見を振り返ることが出来たか？	1 2 3 4	1 2 3 4



道徳学習指導案

日 時 平成21年 7月 8日 水 6校時

対 象 宮古島市立伊良部小学校

3年1組 男子11名 女子12名

授業者 下地 沙織

1 主題名 隠さずに正直に (正直誠実・明朗) 1 - (4)

2 資料名 文溪堂 3年 道徳 『まどガラスと魚』

3 ねらい

過ちを犯してしまったときに、どのように判断し、行動すればよいのかを考え、うそやごまかしをしないで正直に行動しようとする態度を育てる。

4 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値観

この主題は、「第3学年及び4学年の内容1主として自分自身に関すること(4)過ちを素直に改め、正直に明るい心で元気よく生活する。」に関連するものである。

児童が積極的で健康的な自己像を描くには、自己の過ちを認め、改めていく素直さをもつとともに、誠実さを持ち、明るく楽しい生活を心掛けようとする姿勢を持つことが大切である。また、誠実な生き方が共感する心呼び、より深い友達との信頼関係を築いていくのである。この時期の子ども達は、「両親を喜ばそう。先生が褒めるから正直になろう。」という段階から「自分の意志で正しく行動したい。」と思う段階に成長する。それは、だれかに言われなくても正直に行動することで心が明るくなり、自分のよさに気づき前向きな自分に喜びを感じることができるからである。しかし、現実には、正直に行動しなくてはいけないことをわかっているにもかかわらず、その場しのぎで、うそをついたり、ごまかしたりし、葛藤する場面も多くあると考えられる。うそやごまかしは、真の解決には至らず、他者の信頼を失うどころか自分自身の中に後悔や自責の念、強い良心の呵責などが生じる。それを乗り越えるのが正直な心であり、自分自身に対する真面目さであり、伸び伸びと過ごそうとする心の明るさである。そのような誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが望まれる。また、自分自身のことだけを考えるのではなく、相手の立場もよく考えて行動し、過ちを起こしていることに気づいた時は素直に改めようとする態度を育てていきたい。

(2) 児童観

本学級の児童は、うそつくことは、悪いことと頭の中では理解している。しかし、自分の欲求を満たすためや自分をよくみせたいという心が働き、自分の失敗やいたづらを隠そうとする場面もみられる。

1. うそをついたり、ごまかしたりしたことがありますか。
ある 6 ない 16
2. それは、どんなことですか?
・ お金をもらったのにもらってないといった。 ・先生が来たといった。2人 ・明日、体育ないといった。
3. そのときの気持ちも書いてみよう。 心がどうなったのかな?
・さみしかった。言わなければよかった。すごく反省した。お母さんにおこられると思って・・・
4. 言いたくない、言いにくい、と思っているも正直に話したことはありますか?
ある 1 ない 21
5. それは、どんなことですか? 学校で先生におこられたこととお母さんに話した。
6. そのときの気持ちを書いてみよう。 心がどうなったのかな? 嫌になった。

アンケート結果で、「うそをついたことがない」と答えた児童が16名いるのは、その現れだと思ふ。しかし、最近では忘れ物をしてしまったときは、叱られることを知った上で正直に言うようになってきている。このような生活上の経験から正直に言った方が問題をはやく解決できることやいいわけをしていることが自分の心を暗くしていることに気づき始めている。

また、この時期の子ども達は、他人の嘘やごまかしに対しては不正を指摘できるが自分の良くない行動には気づいたり、反省したりすることが少ない。これは、不正を指摘することによってよくなってもらいたいという友達への思いやりからではなく、自分の意見を通そうとする自己中心的な考え方が強いからであると思われる。この時期に、自分の事を客観的に振り返り、よく考えて行動することの大切さをじっくり考えさせたい。

また、自分の心に正直に行動することは、自分だけでなく周りの人達にも良い気持ちを与え、自分自身をはじめ、みんなを明るい気持ちにしてくれることを気づかせたい。

(3) 資料観

友達とキャッチボールをしているときに、誤ってガラスを割ってしまった主人公進一郎は、その場から逃げてしまう。次の日、その家の前を通ると、「ガラスを割ったのはだれだ」と張り紙があった。それを見た進一郎くんの心は暗く湿っている。2日後、彼は猫に魚をとられる場面に出くわすが、正直に謝る近所のお姉さんの姿をみて、自分の過ちを黙っていることに耐えられず、正直に言う決心をする。実際に行動を起こせない心の葛藤を考えるのに適した資料である。子ども達にとって、身近な資料であり、常に正しく正直に行動することの大切さを教える資料である。嘘やごまかしをしてしまうような日常生活における自分自身の行動を見つめるための視点としたい。

(4) 指導観

資料「まどガラスと魚」を共感的に取り扱い、叱られたくない、黙っていよう、悪く思われたくないという気持ちを乗り越え、正直に行動することの大切さに気づかせたい。そのため進一郎の心の変化を場面絵を使って、板書で確認しながら捉える。逃げ出したときの弱い心やはり紙を見たときのしめって重い心からとらえさせたい。

読み聞かせを前半と後半に分け、資料提示の仕方と発問のタイミングを図り、進一郎の葛藤を共感的に読み取らせたい。

「まどのはり紙を見た進一郎は、なぜ心がしめって重くなったのでしょうか」を心の葛藤をスケール表を使い自分の心の深まりを自分自身で感じて欲しい。心の葛藤をスケール表と黒板板書ともに話し合い活動を行うことで、友達の考えに触れ、自分の意見との違いを感じ、自分を振り返る活動を充実して欲しいと考える。心が重い ←→ 心が軽いの心情の変化を後半のおじさんに謝るときの心情へつなげたい。

読み聞かせ後半では、中心発問である『進一郎はどうして謝ることにしたのだろうか。おじさんに話してみよう。』で進一郎の謝る決心について自分も魚を捕られて嫌な思いをし、お姉さんの行動がきっかけとなって、謝る決心がついたこと。また、ガラスまどを割られたおじさんはどうしているか？と他人のことを考える気持ちになったことを気づかせたい。役割演技を使って、価値についての考え方を深めさせたい。教師がおじさん役をし、おじさんが怖いから謝りに来たのではなく、自分が起こした過ちを謝るのであること、相手に対して謝罪する心が働かない、言葉だけの「ごめんなさい」では、いけないことを捉えさせたい。

自分を振り返る場面では、ワークシートを工夫することにより、具体的に振り返らせたい。

5 授業仮説

- (1) 資料提示を前段・後段に分けることで過ちを犯してしまったその後のとるべき行動を考えさせ、価値の理解が深まるであろう。
- (2) ワークシートに項目ごとに書かせることによって自分の行動をみつめることができるであろう。
- (3) 主人公の心を想像し、話し合う活動により、価値の理解を深めることができるだろう。

6 展開

	学 習 活 動 □ 検証の視点	○主な発問 ◎中心発問 ・予想される児童の反応	◇教師の支援 期待される児童の変化
導 入 5 分	1. 「あやまち」をおかしてしまっただ時の気持ちについて話し合い、本時の学習の方向をつかむ。	○図書館の借りてきた本を破ってしまいました。この友達は、どんな行動をとると思いますか？ ・破れたまま返す。 ・図書館の先生に謝る。 ○あやまれないこともあるよね。 ○この絵は、何をしているところかな？ ・ガラスを割ってしまったんだ。 ○ ガラスをわったことがある人 ・わったことあるよ	◇失敗してしまって謝った方がいいとわかっていても、そうできない理由があることに気づかせ本時の価値への方向付けをする。 めあての提示 かくさずに正直な心で・ ◇場面絵 1 を黒板掲示する。
	2. 資料「まどガラスと魚」を読んで話し合う。	○この資料に出てくる進一郎は失敗をしてしまいます。その後、あな	

資料前半を聞く。

(1) 進一郎の心の弱さを考える。

資料提示を前段・後段に分けることで過ちを犯してしまったその後のとるべき行動を考えることができたか。

(2) 進一郎の心の迷いを考える
話し合う。

心の葛藤を話し合う

話し合うことにより多様な考えに触れ、価値の理解が深まったか。

たならどうしますか？進一郎になったつもりで聞きましょう。

①まどガラスをわってしまった進一郎が逃げているときの気持ちはどうでしょう。

- ・ 圭介に「にげろ」といわれたから
- ・ おこられるのがこわい

補助発問
場面絵 2 で進一郎はどれですか？

- ・ 黄色いシャツの子
- なぜ後ろ見ているのですか。
- ・ あやまらなきやいけない
- ・ 気になっている

②「ガラスを割ったのはだれだ」というはり紙を見たとき、進一郎はなぜ心がしめって重くなったのでしょうか。

- ・ おこっているだろうな
- ・ ぼくです。と心の中で叫ぶだけ
- ・ どうしよう。
- ・ 気になっている

補助：心がしめって重いつてどういう状態かな？

- ・ 心配 どうしよう
- ・ 不安 気になっている

◇「ガチャン」という音から怒られる思いと慌てて逃げ出した進一郎の気持ちに共感させる。

BGM

場面絵 2

◇圭介の「逃げろ」の言葉に流され、必死に逃げ後悔する進一郎の気持ちの弱さを押さえる。

場面絵 3

◇張り紙

ガラスをわったのはだれだ！

を掲示

◇進一郎の心の迷いに共感させる。

◇スケール表で進一郎の心情を確認する。

◇心配や不安な気持ち等、進一郎の気持ちを自分の言葉で表現させる。

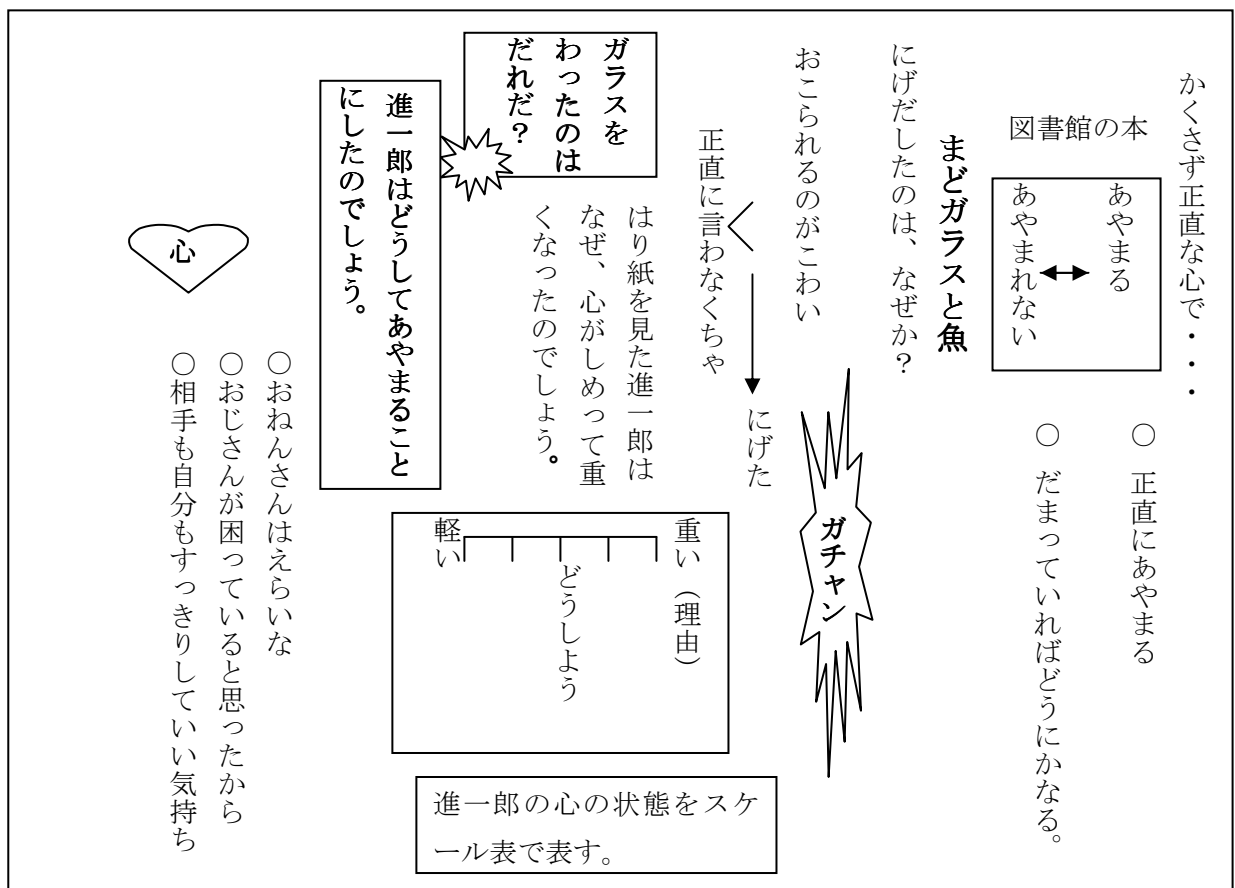
	<p>資料後半を聞く</p> <p>場面絵 5 の吹き出しの進一郎の気持ちを考えさせる。</p> <p>(3) 進一郎が謝ろうと決心したわけを考える。</p>	<p>○進一郎はこの後、どうすると思う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・あやまりに行く ・あやまりにいけない <p>○ 心がしめった進一郎のその後は心がどう変わって行くか考えながら聞いてください。</p> <p>○ お姉さんが猫がとった魚を探してあやまるお姉さんの姿を見て進一郎はどんな気持ちになりましたか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正直にあやまっている。ガラスなどをわったのをあやまろうかな <p>◎③進一郎は、どうして謝ることにしたのでしょうか。</p> <p>おじさんに話してみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ガラスを割ったことは、悪いことと気づいたから ・お姉さんが猫のために謝る姿を見てハッと気づいた。 ・きっと、おじいさんは困っていると思ったから。 <p>○友達の発表を聞いてどう思いましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お姉さんやおじさんの気持ちを考えてすごいと思った。 	<p>◇謝罪に行かなければならない理由を考えさせ、進一郎の葛藤する心情を共感的にとらえさせる。</p> <p>場面絵 4、5 を掲示</p> <p>場面絵 5</p> <p>◇探して謝るお姉さんを見た進一郎の気持ちを考えさせ、自分の行為を改めようとする事で自分の過ちに気づき、素直に謝ろうという気持ちを持たせたことを共感させる。</p>
<p>展開後段 15分</p>	<p>3. 自分自身に向き合う心のノート P 24 に記入</p> <p>4. これまでの自分を見つめ、振り返り、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>書く活動を通し、今までの高められた価値に照らしてを自分自身に振り返ることができたか。</p> </div>	<p>○「みんなで心のつなひきを考えてみよう」正直に言いたい心と言えない心のつなひきです。それぞれの気持ちが勝つとどんな気持ちがするでしょう。</p> <p>○今まで、進一郎を通して失敗したときどうすればよいか考えてきました。進一郎のようにあやまったことがありますか。自分の経験を書きましょう。</p>	<p>◇自分の中にある価値を見つけることができるように自分の生活を見つめさせる。</p> <p>◇自分の事が思い出せない児童には、導入で出された出来事なども参考にさせる。</p>

終 末 5 分	5. 教師の説話を聞く 学習のまとめを書く。	○その場を何とかしようと思った女の子のうそが大好きなお父さんの心まで悲しませてしまい、その後女の子がどうしたかについて今日の「まどガラスと魚」の気持ちと考えながら聞いてください。	◇うそについてごまかしても自分だけでなく、周りの人も悲しませてしまう現実に触れ、過ちをしたとき正直に謝ることの深さを知らせる
------------------	-------------------------------	---	--

7 検証の視点

- (1) 場面絵を興味・関心を示し、考える内容を価値項目を自分のものとして捉えることができたか。
- (2) 心の葛藤をスケール表と黒板板書ともに話し合い活動を行うことで、友達の考えに触れ、自分の意見との違いを感じ、価値の理解を深められたか。
- (3) 書く活動を通し、今までの高められた価値を自分自身に振り返ることができたか。

8 板書計画



「心のつなひき」で、自分自身と向き合おう！
自分が道一郎と同じように失敗したことがあって、そのときあやまることのできた
が考えてみよう。

しっぱい・あやまちをしてしま
ったこと

その後、とった行動

行動をおこしたあとの気持ち

正面に言おうとする心

今日のじゅぎょうは、しっかり覚えられたかな？ ● ○ △ で答えよう。

- ① 道一郎の気持ちになって考えることができたか。()
- ② 意見を言ったり、友達のお見をしっかりと聞くことができたか。()
- ③ 自分のことをふりかえって書くことができたか？()

今日の感想を書いてみよう！

.....

.....

.....

道一郎は、どうしてあやまることにしたのだろう。
おじさんに話してみよう！

.....

.....

.....

☆おじさん。ごめんなさい

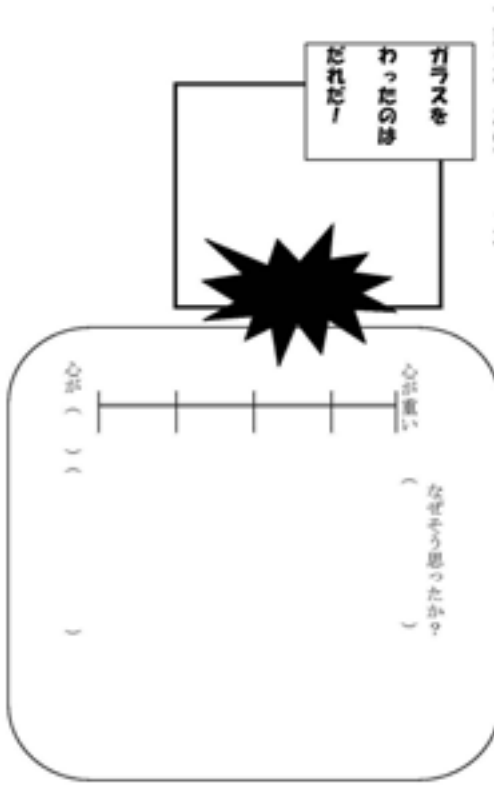
○そうかよく来たね！おじさんは君が正直にあや
まりに来るのをまっていたよ。でも、どうしてあや
まりに来たの？

☆

.....

.....

だから
あやまらないといけないと思って来ました。



なせやろうと思ったの？

「まどガラスと魚」 道徳 第1巻 第1部 第1巻 第1部 第1巻 第1部 第1巻 第1部

平成 2 1 年度 宮古島市立教育研究所職員

所 属 ・ 職 名	氏 名
所 長 指 導 主 事 指 導 主 事	本 村 幸 雄 乾 邦 夫 友 利 直 喜
○適応指導教室「まていだ教室」 指 導 教 諭 指 導 員 指 導 員	宮 国 貴 子 上 地 千 鶴 國 仲 ひ と み
○教育相談室 教 育 相 談 員 教 育 相 談 員 教 育 相 談 員 教 育 相 談 員	砂 川 和 子 久 貝 清 順 島 尻 君 枝 前 川 尚 代

研 究 報 告 集 録 （ 第 6 号 ） 平 成 2 1 年 9 月 発 行

発 行 宮古島市立教育研究所

〒 906-0392

沖縄県宮古島市下地字上地472-39

宮古島下地庁舎内 3 階

Phone : 0980-76-6400 Fax : 0980-76-6154

<http://www3.city.miyakojima.lg.jp/kenkyusyo/>
